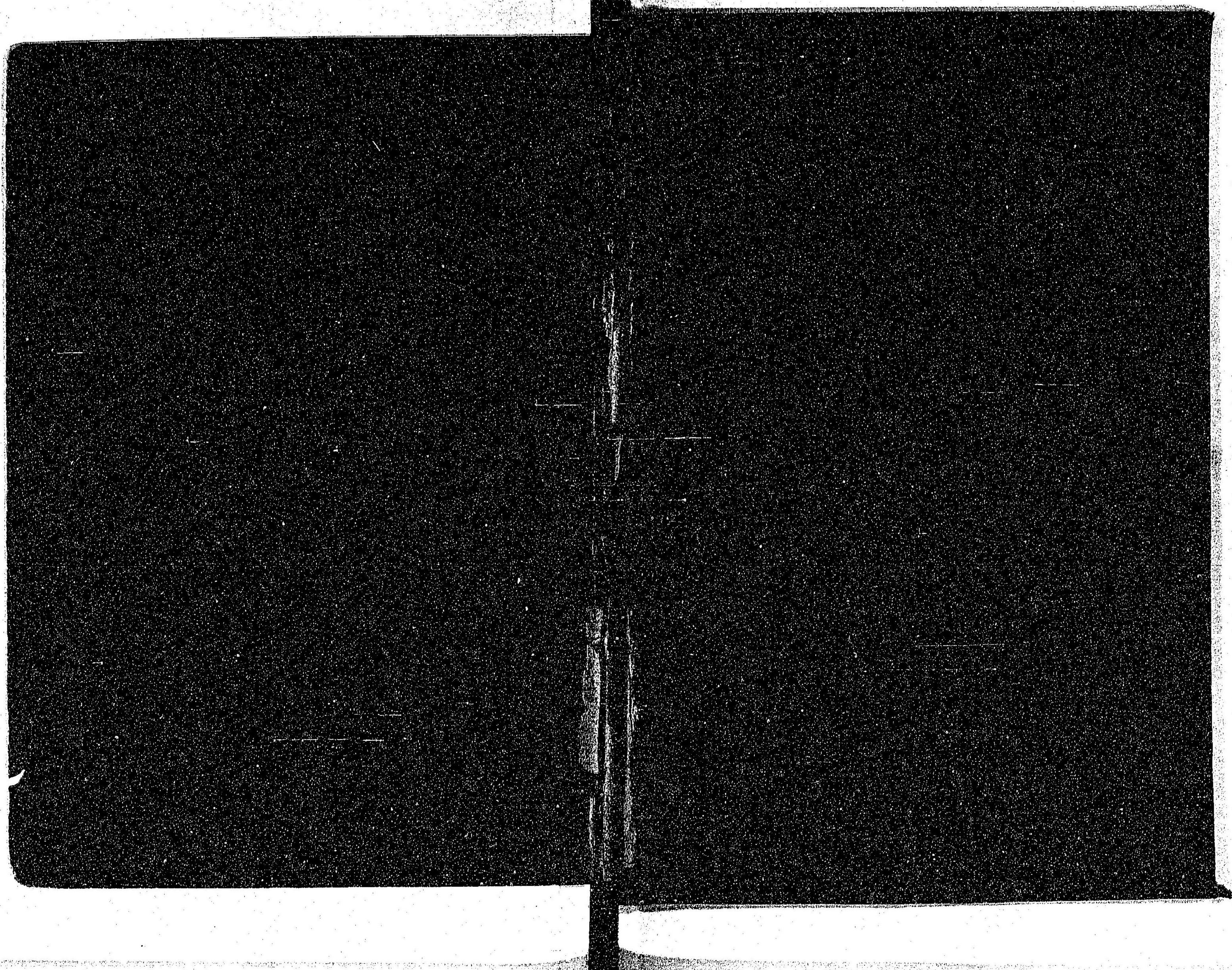


刑法要覽

卷

下



特 6.1
925

東京圖書

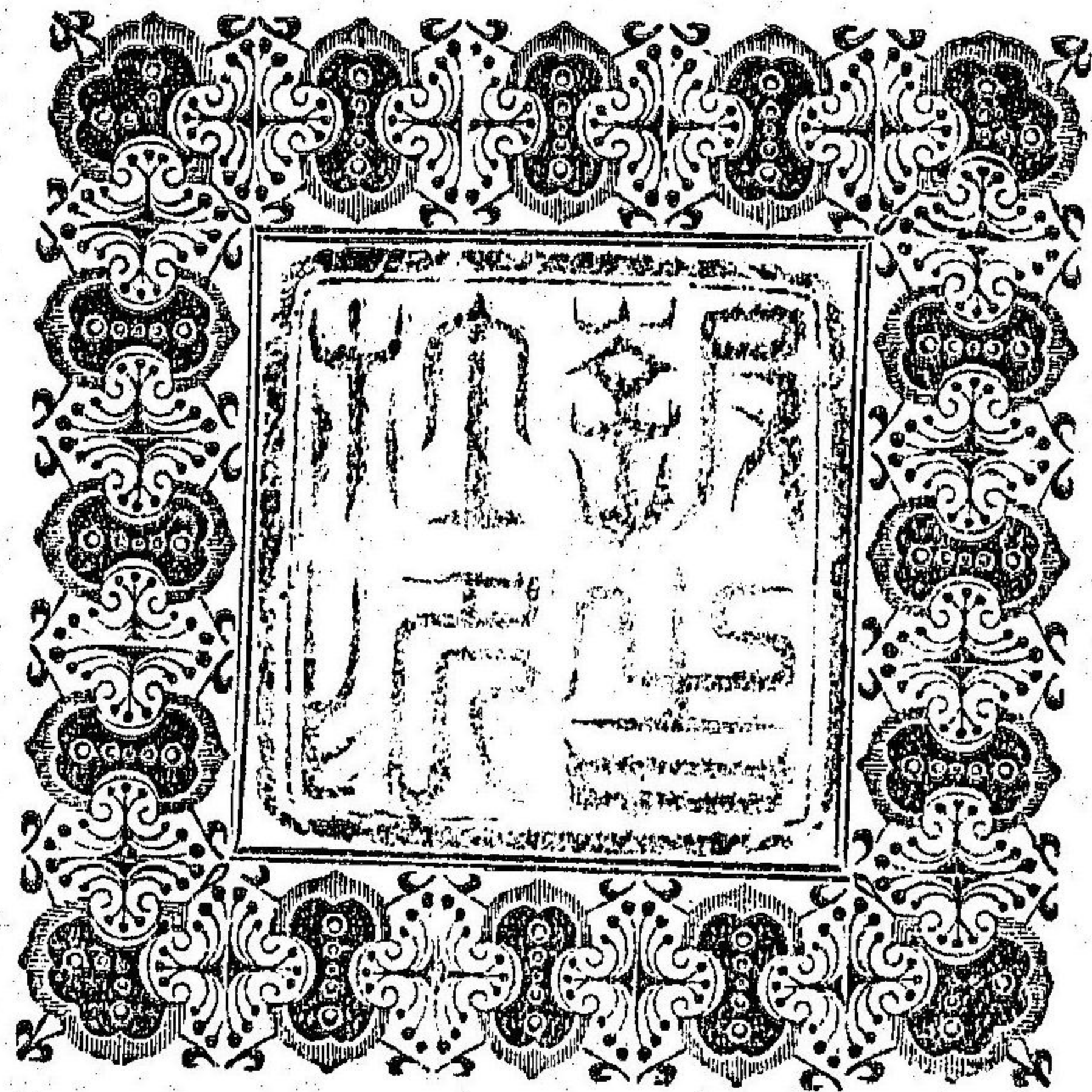
東京圖書
總發行所

大野堯運編輯

刑法要覽

卷下

有
報告社發兌



刑法要覽卷下

大野堯運編輯

第二編

九章 百七十六條

公益ニ關スル重罪輕罪

刑法ニ於テ第二編第三編ト分チ

タルモノハ則チ犯罪ノ等級ヨリ生スル區分ニアラスシテ損害
 チ蒙リタル利益ノ性質ニ基ツク區分是レナリ抑モ罪ニ公益チ
 害スルモノト私益チ害スルモノトノ別アリ公益ニ關スル罪ト
 ハ直接ニ社會チ害スルニ出ルモノヲ云フ其私益ニ關スル罪ト
 ハ直接ニ一人又ハ數人ノ利益ニ對スル罪チ云フ故ニ其害ノ及
 フ所ハ其公益ト私益ヲ害スルニ拘ハラズ共ニ社會ハ直接ニ間
 接ニ害チ蒙ルモノトス然レモ其公益ヲ害シ私益チ傷フニ依
 テ罪ノ性質チ異ニスレハ又之ニ科スルノ刑ニ等差チ立テサル
 可カラズ是レ其編チ分ツテ之ヲ記スル所以ナリ故ニ本編ニ於
 テハ公私ノ順序ニ從ヒ先ツ公益ニ關スル罪種チ掲ケ第三編ニ
 於テ私益ニ關スルノ罪種チ擧ケ而シテ此編ニ載スル所ノ罪大
 別シテ九章ト爲ス第一皇室ニ對スル罪第二國事ニ關スル罪第

三靜謐ヲ害スル罪第四信用ヲ害スル罪第五健康ヲ害スル罪第六風俗ヲ害スル罪第七死屍ヲ毀棄シ墳墓ヲ發掘スル罪第八商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪第九官吏瀆職ノ罪是ナリ此中第一第六第七第八ヲ除クノ外又分テ若干ノ節ヲ細別セリ

第一章 皇室ニ對スル罪 皇室トハ皇家ノ義ニシテ即チ天皇、皇后、

皇太子及ヒ皇族其他皇陵ニ對スル罪ヲ云フ皇室ハ億民ノ奉戴スル所殊ニ日本帝國ハ開國以來皇統連綿トシテ其國體固ト諸外國ト日ヲ同フシテ論スル所ニ非ス故ニ我カ皇室ノ安危ハ日本全國ノ安危ニ係ルヲ以テ國安ヲ害スルコト皇室ニ對スル罪ヨリ大ナルハ無シ是レ此章ヲ第一ニ掲クル所以ナリ

第百十六條 天皇今上帝 太后、皇后、皇太子帝位ヲ踐ム

ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス 本條ニ載スル所ノ外皇太子皇孫皇太子ノ妃ハ皆皇族トス其危害トハ謀殺、毆打創傷、或ハ健康ヲ害スル物品

ヲ周旋シ其他監禁、脅迫、遺棄、等ヲ指スナラン是等ハ通常犯罪ニ在テハ輕重ノ差異ヲ立ルト雖モ此條ノ罪タル實ニ重中ノ重ニシテ唯至尊ヲ侵スト言フヲ以テ足レルカ故ニ其直接ト間接ト問ハス通常ノ例ヲ以テ其權衡ヲ論ス可キモノニアラス故ニ特ニ其罰ヲ嚴ニシ仍ホ未遂罪ノ時ト雖モ皆死刑ニ處ス蓋シ我邦古來ヨリ人臣ノ弒逆ヲ謀ル者未タ曾テ之レ無キカ如シ然レモ既ニ本法ニ於テ法律ノ正條無キ者ハ何等ノ罪ト雖モ之ヲ罰セサルノ明文ヲ掲クルニ因リ亦此條ヲ設ケサルヲ得ス又此刑法ハ獨リ日本國民ニ對スルモノトノミ限ル可カラス今ヤ諸外國人ノ來往スル日ニ衆多ナル或ハ幾百千年ノ後其世態人情亦測ル可カラサルモノアラシ是レ此條ヲ設ケサ (治八三、一一二、一一三) ルヲ得サルノ義ナリ

第百十七條 天皇、皇后、皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル

者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス 本條ハ直接ト間接トノ別ナク尊敬ヲ失スルノ所爲

ヲ云フ其所爲トハ應サニ爲ス可キノ敬禮ヲ爲サズ又爲ス可カラ
サル不敬ヲ爲スノ謂ヒナリ其爲ス可カラサルノ所爲ニ於テ之レ
カ大要ヲ云ハ、所謂罵
詈、侮辱、誹毀、等はナリ

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ 皇陵トハ皇祖ノ
御陵山陵ヲ云フ

不敬ノ所爲トハ皇陵ヲ發掘シ又ハ汚穢毀損スル等ノ類ナリ但皇
族ノ墳墓ニ對スルノ罪ハ第二百六十五條ニ掲クル人民一般ノ墳
墓ニ對スルノ罪 (治八三、二二〇、二四一、二六五)

ト異ナルヲ無シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ

處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

皇族トハ天皇三后皇太子ヲ除ク外皇子皇女皇孫及ヒ皇太子ノ
妃其他世襲ト一代トナ問ハス皇族ノ貴號ヲ帶フル天皇ノ御一族
ヲ云フ皇族ニ對スル罪ハ天皇三后皇太子ニ對スル罪ニ於ケル
ハ多少ノ差異無ル可カラズ然レモ危害ヲ加ヘタル者ハ等ク死刑
ニ處ス未遂罪ニ至テハ輕減シテ無期徒刑ニ處ス但普通ノ
未遂罪トハ一層ノ嚴ヲ加フ宜ク第百十二條ト參照ス可シ (治八
三)

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ

罰金ヲ附加ス 本條ハ第百十七條ニ解示スル所ト其主意異ナ
ル所ナシ唯其害ヲ受クル人ニ依テ刑ノ輕重ア

ル而已而シテ其墳墓ニ對スルノ罪ヲ說サル (二二七、
二二〇)

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ

處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 本條ハ
即チ總

則第三十八條ニ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ各本條ニ於テ之ヲ宣
告ストアルニ適應スルノ一ニシテ第百十七條第百十九條ノ重禁
錮即チ輕罪ノ刑ニ處スル者ト又ハ宥恕減輕シテ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ト爲メニ此條ヲ設クルナリ凡ソ皇室ニ對スル罪ハ假令其罪
輕罪ト雖モ治罪法第八十三條以下ノ規則ニ據リ高等法院ニ於テ
裁判ス可キモノトス是レ亦其被害ノ身分ノ異ナルニ因リ他ノ常

事犯ト異ナ (三九)
ル所ナリ

第二章

自第百二十一條
至第百三十五條

國事ニ關スル罪

凡ソ公益ニ關スル
所ノ罪大別シテ二

種ト爲ス第一國事犯第二常事犯是ナリ今此章ハ國事犯ヲ
説ク國事犯中分テ内亂ト外患トノ二節ト爲ス此國事犯ナ
ル者ハ其目的多ク政事上ヨリ起リ現時ノ政體ヲ變セシメ
ント爲シ若クハ政府ノ權ヲ奪ハント欲スルモノニシテ其
害全國ノ安危ニ關スレハ罪狀極メテ重シト雖モ夫ノ偷盜
姦淫等ノ常事犯ノ如ク一己ノ私慾ヲ逞フスルノ類ニ非ス
故ニ死刑以下ニ在テハ之ヲ常事犯ノ如ク定役ニ服セシメ
スシテ特ニ流刑禁獄及ヒ輕禁錮ノ閔刑ヲ設ケ處分スルナ
リ (二〇、二三、二四)

第一節

至第百二十一條
至第百二十八條

内亂ニ關スル罪

内亂ニ關スル罪ト
ハ外患ニ相對スル

ノ罪ニシテ即チ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ朝憲ヲ紊
亂スルヲ目的トシ内國ノ騷亂ヲ起スノ罪ヲ云フ

第百二十一條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他

朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル

者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

本條ハ先ツ内亂ニ關スル罪
ノ目的ヲ掲ケ次ニ其犯人ノ

種別ト刑罰ノ差等ヲ示ス其目的ヲ掲タル中第一政府ヲ顛覆スト
ハ例ヘハ立君政體ヲ廢シテ共和政府ヲ立ントシ或ハ其政體ヲ變
セサルモ内閣ヲ變更シ若クハ各官署ヲ興廢シ又ハ現今ノ政府ヲ
覆シテ新ニ政府ヲ立ント欲スルノ類ナリ第二邦土ヲ僭竊ストハ
例ヘハ日本國內ノ一隅ニ割據シ其土地ヲ掠奪シ政府ノ命令ニ抵
抗スルノ類ナリ第三朝憲ヲ紊亂ストハ例ヘハ法律ヲ變革シ或ハ
皇嗣ノ秩序ヲ紊シ又ハ郡縣ノ制ヲ廢シテ封建ニ代ヘントスルノ
類ナリ以上ノ目的ヲ以テ多衆結合シテ兵ヲ弄シ國ヲ亂ス者ハ其
危害一國ニ關スルヲ以テ總則第八章ニ照シ皆正犯ヲ以テ論ス可
キ者ノ如シ然レモ其犯人ノ多キ悉ク死刑ニ處スルハ到底行フ可
クシテ行ハレ難キノ憾アラシ又群衆ノ多キ自ラ其情狀異ナルコ
トナキヲ得サレハ左ノ四項ニ區別シ其輕重ヲ量リ處斷スル者トス
(二三、治八三)

一首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス 首魁トハ本條ノ目的ヲ以テ自ラ主トナリ内亂ヲ起シタル者教唆者トハ同上ノ目的ヲ以テ他人ヲ煽動鼓舞シ内亂ヲ起シタル者ヲ云フ此二者ハ内亂ノ根源ニシテ其罪極メテ重シ

二群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス 群衆ノ指揮トハ首魁ノ命ニ從ヒ一軍一隊ノ長トナリ其進退ヲ司令シタル者樞要ノ職務ヲ爲ストハ内亂ノ機密ニ參與シ畫策計謀ヲ爲タル者等ヲ云フ是等ノ者ハ其罪重シト雖モ首魁及ヒ教唆者ニ比スレハ其情稍ヤ輕シ故ニ其重キハ無期流刑甚輕キハ有期流刑ニ處ス

三兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル

者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス 兵器

金穀ヲ資給シトハ身自ラ群衆ニ加ハラステ銃砲彈藥刀鎗若クハ金穀等ノ軍資ヲ給與シテ内亂ヲ容易ナラシムル者ヲ云ヒ故ニ若シ躬ヲ内亂ニ加ハリタル者ハ其二ツノ内一ノ重キニ從テ處斷ス其諸般ノ職務ヲ爲シタル者トハ樞要ノ職務ニアラスシテ各種ノ雜務ヲ爲シタル者ヲ云フ所謂兵器金穀ノ用度ヲ司リ或ハ命ヲ承ケテ味方ヲ募集ノ周旋ヲ爲ス等ノ類ナリ是等ノ者ハ前項ノ者ニ比スレハ其情又較輕シ

四教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス 教唆ニ乘シテ附和隨行シタル者トハ脅迫ニ遇ヒ止ムヲ得ス隨從シタル者ニ非ス全ク教唆者ニ煽動セラレ其勢ニ乘シ之レニ同意シ唯其人數ニ加ハリ隨行シタル者ヲ云ヒ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トハ人夫トナリ運送及ヒ焚出

小使等ニ使役セラレタル者等ヲ云フ是等モ皆内亂ニ關スル者ト雖モ其本心内亂ヲ起スノ念極メテ多カラサル者ニシテ眞個ニ叛逆ヲ以テ論スルノ所爲ニアラズ則チ其情至テ輕キモノトス

第二百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船

船金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内

亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ 内亂ノ目的ヲ以テ手ヲ自ラ

チ開ハズ本條掲クル所ノ物品ヲ劫奪掠取シ愈前途ヲ堅フスル者ハ其所爲未ダ豫備ニ過キスト雖モ已ニ兵ヲ擧ケタル者ト同視シ

之ヲ同刑 (一一一、一二二)ニ處ス

第二百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀

殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同

ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス 政府ヲ變亂スルト

ハ第二百二十一條ニ掲クル如ク全政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊スル等ノ目的ニ出テスト雖モ政府ノ處置ニ於テ憤懣ヲ要路ノ重臣ニ懷キ之ヲ除キテ政事ノ方向ヲ變セントシ或ハ口ヲ君側ノ惡ヲ掃除スルニ藉リ當路ノ有司ヲ刺シ政府ノ變亂ヲ謀ル等ノ類ヲ云フ當ニ要路ノ大臣而已ナラス己レ之ヲ謀ラントスルチ人ニ知ラレ其舉ヲ妨ケラレシトシテ懼レテ其人ヲ謀殺スル者ト如キ亦此條ノ問フ所トス而シテ謀殺者兵ヲ擧クルノ念慮アルノ如何ヲ論セス其意政體上ヨリ起ル者ハ皆内亂ト同ク論シ死刑ニ處ス其附和隨行スル者ハ第二百二十一條ノ區分ニ從テ處斷ス蓋シ假令要路ノ大臣ヲ殺害スル者ト雖モ其意私怨ニ出ルキハ本條ノ關セサル所ナリ (二〇五、治八三)

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃

チ本刑ヲ科ス 本條ハ未遂罪ノ故ヲ以テ減等セサルヲ示ス

ナリ抑内亂ニ關スル罪ノ性質タルヤ皆是レ未遂犯ト謂フヲ得可シ則第二百二十一條ノ罪ノ如キ既ニ望ム所ヲ遂ケタル時ハ己レ之レニ代ルチ以テ其罪ヲ罰スルノ政府ナキニ

至ル可シ故ニ内亂ノ罪ハ獨リ未遂犯ノ時ニ於テ其罪ヲ罰ス又内亂ノ豫備ヲ罰スルハ第百二十五條ニ揭ケタリト雖モ第百二十二條ノ罪ノ如キモ其實豫備ニ過キス然ルニ之レニ同刑ヲ科ス加之此豫備ニ止マル者ハ他ノ犯罪ノ次第ヲ以テ之ヲ云ハ、總則ニ據リ罰ス可カラサルモノアリ或ハ之ヲ罰スルモ一等二等ヲ減ス可キモノアリ然ルニ豫備ノ未遂罪ニ於テ仍ホ本刑ヲ科スル所以ハ他ナシ其害何レモ重大ニシテ社會ノ安危ニ關スルカ故ニ特ニ其罰ヲ嚴ニシ以テ將來ヲ戒シムルナリ

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ

其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス 本條ハ未遂犯罪ヨリ一層輕キ者ニシテ則犯罪ノ用意ヲ爲シテ未タ其事ヲ行ハサル者ナレハ通常ノ犯罪ニ關スルルハ多クハ其罪ヲ問ハサルモノナリ然レモ内亂ノ罪ハ國ノ存亡ニ係リ事重大ニ涉ルヲ以テ豫備ニ止マル者ト雖モ之ヲ不問ニ付ス可カラズ則チ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減シ之ヲ罰スル者トス蓋シ此條ハ

所謂總則第百十一條ニ揭ケタル例ノ背面 (二二一、二二六、治八三)ニ據リ本條別ニ刑名ヲ記載スルモノナリ

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス 此項ハ陰ニ内亂ヲ謀ルマテニシテ多少陰謀ヲ發顯セラル、モ未タ著シク其形跡ヲ顯サ、ル者ナレハ

其豫備ヲ爲ス者ヨリ亦更ニ輕キモノナリ故ニ其罪跡微少ニシテ既ニ其豫備ヲ爲シタル者ニ比スレハ其危害甚タ少シト雖モ事重件ニ係ルヲ以テ之ヲ未發ニ防キ社會ノ安寧ヲ護ラサレハ後害亦測ル可カラズ因テ陰謀ニ於テ直チニ之ヲ罰ス然レモ其罪前項ニ比スレハ亦一層ノ輕キヲ覺フ故ニ第百二十一條ノ區分ニ從ヒ各二等ヲ減スルナリ

第百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未

タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス 本條ハ總則第

八十八條ニ此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲クト云フ
 ノ一ナリ其總則ニ掲ケタル所ノ自首ハ事未タ發覺セサル前ニ於
 テ官ニ自首スルヲ必要トスト雖モ今此條ニ云フ所ノ自首ハ事ノ
 既ニ發覺スルト未發トニ係ハラヌ未タ會テ其事ヲ行ハサル前ニ
 於テ官ニ自首スルヲ以テ緊要トス蓋シ常事犯ノ自首ニハ本刑ニ
 一等ヲ減スルニ止マリ國事犯ノ自首ハ其罪ヲ全免スルヲ觀レハ
 其權衡或ハ均シキヲ得サルニ似タレ凡各其理由ノ存スルモノア
 リ則チ常事犯ノ自首ハ犯罪ノ後ニ係ルヲ以テ幾分カ社會ヲ損害
 シ又其自首ニ因テ社會ニ得ル所ノ利益モ唯犯人搜索ノ手數ト其
 費用ヲ省クト犯罪無罰ノ患無キトノ爲メニ冤罪ニ陷ル者無キト
 ニ過キヌ今此條云フ所ノ自首ハ未タ其事ヲ行ハサル前ニ係ルヲ
 以テ社會ニ害ヲ顯サ、ル而已ナラヌ悔悟自首シテ其事實ヲ吐露
 シ黨類ヲ告知スルニ於テハ百萬ノ生靈ヲシテ塗炭ノ苦ニ陷ラシ
 ムルノ大害ヲ未然ニ防キ又莫大ノ國費ヲ損亡スルノ大患ヲ免レ
 禍根ヲ絶滅シ國安ヲ維持スルノ大益アリ故ニ其犯情ハ極メテ重
 シト雖モ自首スル時ハ其効力モ亦大ニシテ其罪ヲ贖フニ足ル因

テ其罪ヲ全免ス然レ凡其罪固ト重大ニ涉レハ再犯ヲ防キ且ハ後
 來ヲ警メサルヲ得ス故ニ之ヲ監視ニ付シ其期限間公權ヲ行フ
 チ停止ス但本條ノ監視ハ重罪輕罪ニ附加スルモノニ非ス主刑ヲ
 免シテ止マ監視ニ付スルモノナレハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス
 ル者 (四〇、八五、八八、治八三)
 トス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與

シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス 内亂
 スノ前タルト其内亂中ナルトノ時ニ於テ内亂ノ陰謀若クハ豫備
 チ爲ス者タルト知テ之レニ集會所又ハ止宿所ト爲ス可キ家屋
 チ貸與シタル者ハ利ヲ圖ルト否トニ係ハラヌ本條ノ刑ヲ科ス是
 等ハ内亂ニ與ミシタル者ニ非スト雖モ多少其犯罪ヲ補助スル者
 ナレハ
 ナリ

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内

八十八條ニ此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲クト云フ
 ノ一ナリ其總則ニ掲ケタル所ノ自首ハ事未タ發覺セサル前ニ於
 テ官ニ自首スルヲ必要トスト雖モ今此條ニ云フ所ノ自首ハ事ノ
 既ニ發覺スルト未發トニ係ハラヌ未タ曾テ其事ヲ行ハサル前ニ
 於テ官ニ自首スルヲ以テ緊要トス蓋シ常事犯ノ自首ニハ本刑ニ
 一等ヲ減スルニ止マリ國事犯ノ自首ハ其罪ヲ全免スルヲ觀レハ
 其權衡或ハ均シキヲ得サルニ似タレ凡各其理由ノ存スルモノア
 リ則チ常事犯ノ自首ハ犯罪ノ後ニ係ルヲ以テ幾分カ社會ヲ損害
 シ又其自首ニ因テ社會ニ得ル所ノ利益モ唯犯人搜索ノ手數ト其
 費用ヲ省クト犯罪無罰ノ患無キトノ爲メニ冤罪ニ陷ル者無キト
 ニ過キス今此條云フ所ノ自首ハ未タ其事ヲ行ハサル前ニ係ルヲ
 以テ社會ニ害ヲ顯サ、ル而已ナラヌ悔悟自首シテ其實ヲ吐露
 シ黨類ヲ告知スルニ於テハ百萬ノ生靈ヲシテ塗炭ノ苦ニ陷ラシ
 ムルノ大害ヲ未然ニ防キ又莫大ノ國費ヲ損亡スルノ大患ヲ免レ
 禍根ヲ絶滅シ國安ヲ維持スルノ大益アリ故ニ其犯情ハ極メテ重
 シト雖モ自首スル時ハ其効力モ亦大ニシテ其罪ヲ贖フニ足ル因

テ其罪ヲ全免ス然レ凡其罪固ト重大ニ涉レハ再犯ヲ防キ且ハ後
 來ヲ警メサルヲ得ス故ニ之ヲ監視ニ付シ其期限間公權ヲ行フ
 事停止ス但本條ノ監視ハ重罪輕罪ニ附加スルモノニ非ス主刑ヲ
 免シテ止タ監視ニ付スルモノナレハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス
 ル者 (四〇、八五、八八、治八三)
 トス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與

シタル者ハ二一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス 内亂
 起
 スノ前タルト其内亂中ナルトノ時ニ於テ内亂ノ陰謀若クハ豫備
 ヲ爲ス者タルヲ知テ之レニ集會所又ハ止宿所ト爲ス可キ家屋
 ヲ貸與シタル者ハ利ヲ圖ルト否トニ係ハラヌ本條ノ刑ヲ科ス是
 等ハ内亂ニ與ミシタル者ニ非スト雖モ多少其犯罪ヲ補助スル者
 ナレハ
 ナリ

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内

亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ内亂ニ乘シ内亂ニ關セサル通常ノ罪トシテ並ヒ犯セシ時ノ處分法ヲ示スモノナリ乃チ内亂ノ目的ヲ達セシカ爲メニ人ノ身體又ハ財産ヲ侵害スルコトアルモ素ヨリ其目的ヲ遂ケントスルカ爲メナレハ内亂ノ罪ヲ以テ論ス可キモノナレトモ其内亂ヲ奇貨トシ一己ノ私慾ヲ遂ケンカ爲メ或ハ宿怨ヲ晴サシカ爲メニ人ヲ傷殺シ若シハ強姦、放火、盜賊、等ノ重罪輕罪ヲ犯ス者ハ内亂中之ヲ犯スト雖モ通常ノ罪トシ之ヲ處斷スル者トス然レモ固ト國事ノ犯人ナレハ國事犯ト常事犯トノ兩罪ノ輕重ヲ比較シ數罪俱發ノ例ト同ク其重キニ從テ之ヲ處ス但是等ノ犯罪ニ就テ國事ニ關スルト常事ニ關スルトノ區別ヲ立ツルニハ其犯罪ノ原因ト本犯ノ心情如何トヲ審明スルヲ以テ最モ肝要トス

第二節 至第百三十五條

外患ニ關スル罪

此節ハ外國ニ與シテ我邦及ヒ我邦

ノ同盟國ニ抗敵シ若クハ外國ニ附屬シ又ハ敵國ニ助力シテ危害ヲ本國ニ被ラシメントスル者ノ罪ヲ説ク蓋シ此犯罪タル内亂ヲ起シ内國ノ政事ヲ變セント欲スル者ニ比スレハ其害殊ニ懼ル可ク其情更ニ惡ム可キ者アリ蓋シ其患害タル獨リ内國政府ノ變亂ヲ來スニ足ル可キ而已ナラス其甚タシキニ在テハ我邦ヲシテ獨立ノ大權ヲ失ハシムルニ至ルモ知ル可カラス實ニ其害ノ大ナル是レニ過クルモノ無シ且ヤ其犯情タル自國ヲ棄テ、他邦ニ納ル、ハ人情ノ忍サル所必スヤ濊チ自國ノ政府ニ抱キ力チ外國ニ藉テ己レノ非望ヲ果サント欲スルカ如キニ外ナラス故ニ此節ヲシテ國事犯罪ノ一種ト爲スナリ

第二百二十九條

外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國

ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

外國ニ與シテ本國ニ抗敵シトハ日本人民タル

者外國ニ服從シテ與ニ本國ニ敵對シタル者ヲ云ヒ又外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シトハ我邦甲ノ外國ト同盟シ乙ノ外國ト開戦ノ布告ヲ爲タル以來其交戰中甲ノ外國へ敵對シタル者ヲ云ヒ其本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタルトハ自ラ本國ニ敵對セスト雖モ本國ニ叛ク心ヲ懷キテ敵國ノ兵ニ附屬シタル者ヲ云フ以上ノ犯罪ハ其情種々ノ別アリト雖モ其害ノ懼ル可キニ至ツテハ則チ一ナリ故ニ皆 (拾八三) 死刑ニ處ス

第二百二十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラ

シメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス 躬自ラ敵兵ニ加ハリ若クハ之レニ附屬セスト雖モ本國又ハ同盟國外國ト交戰中敵兵ヲ誘引シテ本國ノ管内ニ侵入セシメ或ハ本國及ヒ同盟國ニ附屬シタル本條記載ノ物件ヲ敵國

ニ交付シタルハ其所業本國ノ不利ヲ謀リ敵國ヲ助クル者ニシテ其害本國ヲシテ顛覆滅亡セシムルニ足ルコトアリ其罪其害ノ大ナル前條ト相異ナルコト無シ仍テ同ク死刑ニ處ス

第二百二十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ

漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ

敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス 本條ハ交戰前後ヲ問ハズ躬

テ敵國ノ間諜トナリ陸海軍ノ軍略秘計ニ關スル事件ヲ敵國ニ内通シ又ハ兵隊ヲ屯集シタル要害ノ場所並ニ兵線ノ位置又ハ道路ノ險阻ト平夷ナル等ノ地形圖面ヲ交付シテ敵國ノ利ヲ謀リ本國ニ害ヲ來セルノ罪ナレハ其情重クシテ其害モ亦大ナリ然レモ前條ニ比スレハ稍ヤ輕キ者トス故ニ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシム若ク

ハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

敵國ヨリ本國ノ内情ヲ探偵
セシメカ爲メ來リタル間諜ヲ
内地ニ誘導シテ其目的ヲ容易ナラシメ又ハ其間諜ヲ藏匿シテ探
偵ヲ自由ニセシメ若クハ逮捕ヲ免レシメタル者ハ躬自ラ間諜ト
ナルニ非レハ其罪害共ニ前項ト
異ナルヲ無シ故ニ同刑ニ處ス

第三百三十一條

陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ

及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其
賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シ

タル時ハ有期流刑ニ處ス

本條ハ軍用ノ物品及ヒ工作ノ
請負ヲ爲シナカラ外國ト交戦
ノ際ニ至リ敵國ニ通謀シ若クハ賄賂ヲ受ケ放ラニ軍備ノ缺乏ヲ
致スノ罪ヲ云フ是等モ亦其罪大ナリト雖モ前條ノ犯罪ニ比スレ
ハ其情稍ヤ輕シ故
ニ有期流刑ニ處ス

第三百三十三條

外國ニ對シ私ニ戦端ヲ開キタル者ハ

有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等

ヲ減ス 本條ハ前數條ト異ナリ本國ニ叛キ或ハ抗敵スルニ非ス
又敵國ヲ助クルニ非ラスシテ外國ニ對シ戦端ヲ開クヲ

云フ其外國ニ對ストハ敵國及ヒ同盟國其他和親條約國ナルト否
トヲ問ハズ唯私ニ外國ト戦争ヲ開クヲ云フナリ凡ソ日本人民タ
ル者兵權ヲ有スルト否ヲサルトヲ論セス或ハ陸海軍ノ兵ヲ率ヒ
若クハ暴徒ヲ聚衆シテ私ニ兵ヲ發シテ外國ト戦端ヲ開クハ唯
ニ本國政府ノ大權ヲ侵ス而已ナラス内外兩國ノ平和ヲ害シ本國
ノ危害ヲ來スモノナルカ故ニ有期流刑ニ處ス但シ其豫備ヲ爲ス
ニ止ル者ハ未ダ其害ヲ醸成スルニ非サレハ犯ス所大
ナレハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スルナリ

第三百三十四條

外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ

布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上

三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

局外中立トハ外國ト外國ト互ニ戰爭ヲ開キタルニ際リ本國ハ何レノ一方ニモ與セスシテ局外ニ獨立スルヲ云フ其局外中立ノ布告ニ背キ一方ノ外國ニ私ニ兵器彈藥船艦其他軍用ノ物品ヲ賣與シ若シハ兵馬糧食ヲ資給シテ其中立ノ布告ヲ破ラブル可キ所業アルハ徒ラニ一方ノ恨ヲ來シ本國ヲ仇視セラル、ニ至ラシ蓋シ其犯情ニ於テハ固ト直接ニ自國ヲ害セントスルノ目的ニ出ルニ非スト雖モ之ヲ輕罪トシテ罰スルナリ

第二百二十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

輕罪ニ付スニ付加スル監視ノ下ハ載テ第三十八條ニアリ而シテ同條ニ依ルハ其重罪ニ在ラサル限りハ監視ニ付セサルモノトス故ニ本章ニ定ムル輕罪ヲ犯シタル者及ヒ重罪ヲ犯シテ宥恕減輕ニ因リ降シテ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ當然本條ニ依テ監視ニ付ス蓋シ其旨趣全ク

第二百二十條ニ同シ但軍人軍屬ニシテ此章ニ記載シタル所ノ罪ヲ犯シ陸海軍律ニ明文アル者ハ皆其法律ヲ以テ論ス可クシテ敢テ刑法ノ關涉スル所ニアラス

第三章 自第百三十六條 至第百八十一條 靜謐ヲ害スル罪 此種ノ犯罪ハ則一地方及ヒ一郡一村

ノ騷亂ヲ來シ或ハ一箇ノ官廳若クハ官吏ニ對シテ暴行ヲ爲シ又ハ社會一般ノ平和ヲ害シ徒ラニ政府ノ公權ヲ蔑如シ政府ノ保護ヲ錯ラシムルモノヲ云フ故ニ夫ノ國事犯ノ如ク政府ノ全體ニ係ル等甚シキ大害ヲ與フルモノニ非サレハ其罪モ又概不輕カラサルヲ得ス之レ前章ト同シカラサル所以ナリ而シテ此章大別シテ九節ト爲ス第一兇徒聚衆ノ罪第二官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪第三囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪第四附加刑ノ執行ヲ遺ル、罪第五私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪第六往來ノ通信ヲ妨害スル罪第七人ノ住所ヲ侵ス罪第八官ノ封印ヲ破棄スル罪第九公

務ヲ行フヲ拒ム罪是ナリ

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆トハ數人呼集シテ官民ヲ騷擾セ

シテ謀リ又ハ暴動スルノ罪ニシテ所謂一揆暴動ノ罪ヲ云フ

第二百二十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏

ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處

ス 凡ソ暴動ヲ謀ルハ地方ノ兇荒ニ因リ村市ノ富家ニ迫テ賑恤ヲ促シ或ハ租稅ノ改革ニ服セスシテ官廳ニ強訴シ或ハ布告ヲ誤解シテ之レカ施行ヲ妨グル等ノ事ニテ即チ衆ヲ召集シ亂暴ノ舉ヲ爲サント謀ルノ類ナリ故ニ若シ既ニ暴動ヲ謀ルト雖モ官

吏ノ説諭ヲ受ケ解散スルハ其罪ヲ論セス然レモ其説諭ニ應セズ強テ官命ヲ拒ムハ則政權ヲ蔑如スル者ナルヲ以テ本條ノ刑ニ處ス (二〇四、二〇五、二〇九、一一一)

第二百二十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官

吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ハ暴動ヲ謀リ官吏ノ説論ニ應セサル者ノ罪ヲ云ヒ本條ハ既ニ暴動ヲ行ヒタル者ノ罪ヲ云フ其暴動ノ狀況ハ既ニ前條ニ解示スルカ如シ其犯罪ハ之ヲ四種ニ區別シ各其罪ニ從テ處分ス但農工ノ雇人其賃錢ヲ増サシメ又ハ農工ノ景況ヲ變スル爲メ偽計威力ヲ以テ雇主及ヒ他ノ雇主ニ妨害ヲ爲シタル者ノ如キ

ハ第二百七十條ニ據リ處斷スル (二〇四、一〇五、二〇九、一一一)
者ニシテ此條ノ問フ所ニ非ス

第二百二十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶

倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ

放ツ者ヲ死刑ニ處ス 本條ハ暴動ノ際一層兇惡ヲ極メ謀故
殺及ヒ放火ノ罪ヲ犯シタル者ヲ云フ

例ヘハ暴徒五人ニテ現在手ヲ下シ人ヲ殺害シ或ハ家屋船舶倉庫
等ニ火ヲ放チ之ヲ燒燬シタル者ハ其下手者五人ヲ皆死刑ニ處シ

之レニ關係セサル者ハ勿論其首魁及ヒ教唆者(暴動ノ)
ト雖モ其情ヲ知ラサルキハ固ヨリ前條ノ刑ニ處ス (三九三、
二九四、二九五、二九六、二九八、四〇二、四〇五)

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ 首魁及
ヒ教唆

者ニシテ他ノ人ヲ殺シ放火セントスル情ヲ知テ之ヲ制止セサル
ハ己レ之ヲ欲シテ他人ニ行ハシムルニ異ナラス故ニ下手者ト同

シ死刑
ニ處ス

第二節 至第四百
十一條 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル

罪 此節ハ人民官吏ノ職務上ニ對シ妨害ヲ爲シタル者ノ
罪ヲ云フ又之レニ反シ官吏人民ニ對スルノ罪アリ即

チ第二百七十六條以下ニ記載ス皆其ニ公益ニ關スル罪ノ
種類トス蓋シ此節ニ云フ人民官吏ノ職務上ニ對シ妨害ヲ

行フトハ一人又ハ二人ノ小數ニテ犯シタルヲ云フ若シ多
衆結合シテ之レヲ犯スカ如キハ兇徒聚衆ノ本條ニ據リ處

斷スル
者トス

第二百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ

又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行

脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四

年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 本條ハ職務ノ字ヲ主眼トス若シ職務外ニシテ抗

チ常人ヲ以テ論シ此條ノ問ハサル所トス凡ソ官吏職務ヲ行フハ

各章程ヲ履ミ規則ニ據テ其權限内ニ於テスルモノトス因テ其官

職ノ尊卑ト事ノ輕重ヲ問ハス其職務ヲ行フハ即チ公權ノ一部ヲ

行フ者ナルカ故ニ人民ハ勉メテ之ヲ遵奉セサル可カラズ假令官

吏法律規則ヲ誤用シ或ハ其權限ヲ侵スルモ其官吏ニ抗拒ス

ルモ皆本條ノ罪アルヲ免レス故ニ若シ服シ難キノ理由アルニ

於テハ異日訴訟及ヒ請願スルノ法ニ依ラサル可カラス若シ夫レ

背法越權等ノキニ當リ人民ニ抗拒ノ權ヲ與マルキハ人民ハ毎ニ

口ヲ越權等ニ藉リ竟ニ其職權ニ抗拒スルノ弊ヲ生ス可シ蓋シ法

律規則ヲ執行シトハ例ヘハ裁判官ノ審判ヲ爲シ稅關官吏ノ輸出

入ノ物品ヲ検査スルノ類ニテ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルト

ハ府知事縣令ノ命令ヲ受ケテ其屬官郡區吏其職務ヲ行ヒ或ハ檢事

又ハ裁判所ノ命令ニ從テ警察官吏人ヲ逮

捕シ若シハ財産ヲ差押ユルノ類ヲ云フ

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ

行ハシメタル者亦同シ 此項ハ前項ト反對ノ事實ヲ云フ即

チ前項ハ其職務ヲ行フニ抗シ本項

ハ強テ職權外ノ一ヲ爲サシム然レモ其行爲ニ於テハ均シク暴行

脅迫ヲ以テ官吏ノ職務ヲ妨害スル者ナルヲ以テ亦前項ノ刑ニ處

ス其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシムルトハ例ヘハ警察官

ヲ脅迫シテ無罪ノ人ヲ逮捕セシメ或ハ會計吏ニ暴行ヲ加ヘ定規

ニ違テ金穀ヲ支出セ

シムルノ類是ナリ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル

者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ

從テ處斷ス 本條ハ前條ノ罪ヲ犯スニ際シ爲メニ官吏ヲ毆傷

シタルキノ罪ヲ云フ例ヘハ人ヲ毆打創傷シ因テ

死ニ致シタル者ハ第二百九十九條ニ據リ重懲役ニ處ス本條ニ關

スル者ハ亦之レニ一等ヲ加ヘ有期徒刑ニ處シ又官吏ヲ毆打創傷

シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹ラシメタル者ハ第三百一條ニ照シ一等ヲ加フレハ一年三月以上三年九月以下ノ重禁錮トナルヲ以テ前條ノ刑ヨリ輕シ然ルハ乃チ本條ニ所(二〇〇)從一九九至三謂重キニ從テ前條ノ刑ヲ科ス可キモノトス(〇八)

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容

若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス 此條ハ唯官吏ノ職務ヲ行フニ對シ之ヲ侮辱スルノ

罪ヲ云フ例ハ裁判官ノ法庭ニ於テ裁判ヲ爲スル

其目前ニ在テ裁判官ヲ毆タントスルノ形容ヲ爲シ若クハ惡口雜

言ヲ以テ之ヲ罵詈シ又ハ巡行ノ巡查ニ對シ目前ニ於テ種々ノ形

容ヲ爲シ罵詈嘲弄スルノ類ヲ云フ

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ

演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ 官吏ノ職務ニ對シ新聞

事記行ヲ記載シ若クハ圖畫ヲ以テ陰ニ醜態ヲ摸寫シ又ハ公然演

說等ヲ爲シテ之ヲ誹謗シタル如キハ目前ニ非スト雖モ其害廣ク

衆人ニ傳播シ遠ク世上ニ存スルヲ以テ(三五八)

其罪亦輕カラヌ故ニ前項ト同刑ニ處ス

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿ス

ル罪 囚徒逃走ノ罪トハ未決已決ノ囚人自ラ逃走シ若ク

ハ他人之ヲ逃走セシムルノ罪ヲ云ヒ罪人ヲ藏匿ス

ルノ罪トハ未決捕ニ就カサル犯罪人又ハ逃走ノ囚人若ク

ハ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知テ之ヲ藏匿スル罪ヲ

第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處ス 本條ハ既ニ確定ノ判決ヲ受ケ

タル重罪輕罪違警罪ノ囚徒獄

第二編 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 三十一

舍或ハ外役場ヨリ逃走シタル罪ヲ云フ蓋シ囚人トシテ其刑ヲ脱
レント欲スルハ罪人普通ノ情ニシテ深ク之ヲ惡ム可キニ非サル
而已ナラス其逃走スル多クハ看守者及ヒ護送者ノ懈怠ナルニ因
ル故ニ後項ノ逃走者ニ比スレハ其情更ニ輕シ囚テ其刑モ亦漸ク
輕ニ
處ス

若シ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃
走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
已決ノ囚人ニシテ獄舍ヲ破リ或ハ手鎖連鎖檻車其他ノ獄具ヲ毀
壞シ又ハ看守者護送者ニ暴行若シハ脅迫ヲ加ヘテ逃走シタルハ
其情前項ニ比スレハ更ニ惡ム可キ者タリ故ニ其刑一層ノ重キニ
處ス但以上ノ刑ヲ執行スルノ順序ハ總則第九十五條ニ據ル若シ
無期徒刑ノ囚ニ係ル時ハ本條ノ刑ヲ言渡シ別ニ獄則ニ從テ其懲
罰ヲ加フルコアル可ク又總則第五十七條ニ照シ假出獄ヲ許サ、
ルニ止マ (五七、九五、一〇〇、一四三、一四五、一四九)
ルナリ

第四百十三條

已決ノ囚逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯

ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯

ヲ以テ論ス 通常ノ重輕罪ニシテ再ヒ犯スルハ再犯ヲ以テ論シ

凡已決ノ囚徒逃走ノ罪ハ是レト處分ヲ異ニシ刑期限内再ヒ逃走
ノ罪ヲ犯スニ非サレハ逃走再犯ヲ以テ論セサルヲ示ス夫レ再犯
加重ハ初犯ノ刑ニ於テ仍ホ真心悔悟セス再ヒ罪ヲ犯ス者ハ囚人
自ラ尋常相當ノ刑ヲ以テハ之ヲ懲戒スルニ足ラサルコトヲ証スル
モノトシ本刑ニ一等ヲ加ヘ其罰ヲ嚴ニスト雖モ逃走ノ罪ハ畢竟
其刑苦ヲ脱レントスルニ起ルノ犯罪ナレハ之ヲ逃走ノ初犯トシ
再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者トハ例ヘハ禁錮
三年ノ刑ニ處セラレ一月ヲ經テ後竊カニ逃走シ亦一月ヲ經テ捕
ニ就キ前條首項ニ據リ重禁錮五ヶ月ノ刑ニ處セラル、ニ當リ逃
走中ノ日數一月ヲ除キ前犯ノ殘期二年十一月ト逃走ノ罪五ヶ
月トヲ併セ更ニ三年四ヶ月ノ刑ヲ受ケ其刑期限内ニ再ヒ逃走
シタル者ヲ云フ則チ是ヲ逃走再犯トシ以テ本條ノ刑ニ處ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第
 百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ
 於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス 此條ハ未決囚徒ノ逃
 走罪ヲ云フ蓋シ罪囚
 未タ確定ノ判決ニ至ラス糾問若クハ上訴中監倉ニ拘留セラル
 者逃走シタル者モ亦第百四十二條ノ例ニ照シ處斷ス而シテ未決
 ノ囚ハ原犯ノ罪未タ決セサルヲ以テ之ヲ判決スル時ニ於テハ數
 罪俱發ノ例ニ據ラサル可カラズ故ニ原犯逃走ノ罪ヨリ重キハ
 原犯ノ罪ニ處シ若シ逃走ノ罪原犯ノ罪 (二〇〇、一〇二、一四五)
 ヨリ重キハ逃走ノ罪ニ處スル者トス

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時
 ハ第百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ 本條以下囚
 徒ト稱スル
 ハ已未決ノ囚徒ヲ兼又凡ソ數人連合シテ罪ヲ行フハ自然其勢力
 ナ有シ亦其害モ大ナリ故ニ此刑法ニ於テハ數人共謀シテ罪ヲ犯

シタルハ必ス通常ノ刑ヨリ重ク處スルヲ法トス
 故ニ本條モ一等ノ重キヲ加ヘ之ヲ處斷スルナリ (從一〇四至一〇七、
 一四二)

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ
 器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三
 月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
 下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ
 一等ヲ加フ 本條以下ハ他人囚徒ヲ助ケテ逃走セシメノヲ謀
 リ又ハ逃走セシメタルノ罪ヲ云フ兇器其他ノ器具
 トハ刀劍銃鎗錐等ノ類ニシテ獄舎ヲ毀壞スルニ足リ又ハ暴行
 脅迫ノ用ニ供ス可キ物件ヲ云フ是等ノ物件ヲ給與シ又ハ逃走ス
 ルノ手段ヲ指示教諭シタル者ハ其給與方法ニ因リ未タ逃走ニ至
 ラスト雖モ犯人自ラ逃走ヲ謀ルニ比スレハ其情輕カラス故ニ止
 マ給與指用シタル而已ニテ本條ノ刑ヲ科ス其給與指示ニ因テ逃
 走ヲ遂ケタルハ愈社會ニ害ヲ與フルヲ以テ本刑ニ一等ノ重キ

ヲ加

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條ハ逃走ヲ助ケタル者ナレトモ本條ハ他人自ラ其兇器ヲ用ヒ若クハ暴行ヲ以テ看守者或ハ護送者ヲ制壓シ已決未決ノ囚徒ヲ劫奪シ或ハ脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ニシテ其情狀甚ク惡ム可シ故ニ更ニ其刑ヲ重クス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

前項ハ輕罪以下ノ囚徒ニ係リ此項ハ重罪刑ノ囚徒ニ係ル即チ囚徒ノ罪重キ所ハ社會ノ危懼モ亦多キヲ加フ故ニ之ヲ輕懲役ニ處ス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

看守者及ヒ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル者ト雖モ第五百十條ニ掲ケタル如ク既ニ之ヲ罰ス況テ此條ノ如ク其職務ヲ顧ミス賄賂囑託ヲ受ケ又ハ故意ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル者ハ其罪狀甚ク惡ム可キ者ニシテ常人ノ囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行ヲ以テ逃走セシメタル罪ト其輕重相異ナルヲナシ故ニ之レト同刑ニ處ス蓋シ此條ノ末文前條ニ同ト記載セズシテ前條ノ例ニ同シト記載シタルハ第二編以下ノ條中二箇以上ノ刑名ヲ掲ケタルハ皆何條ノ例ニ同シト記シ唯一條ニ一刑名ヲ掲ケタルハ何條ニ同シト記載セリ是レ此刑法ノ文例ナリ讀者宜シク注目セラレ可シ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷

ス 第四百四十二條以下ニ記載シタル罪ハ輕罪ノ未遂罪ト雖モ之ヲ
不問ニ措ク可カラズ故ニ總則第四百十二條ノ例ニ照シ已ニ遂ケ
タル本條ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ其刑ヲ科ス凡ソ輕罪ノ未
遂罪ハ本條別ニ記載セザレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ總則第百
十三條二項ニ示スカ如シ乃チ此條ハ本條
別ニ未遂犯罪ヲ罰ス可キヲ示スノ一トス

第百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃

走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス 本條ハ第四百四十二條ノ首項ニ記スル逃走者ノ如ク未決已決ノ
囚人竊ニ間隙ヲ窺ヒ逃走スルヲ看守者又ハ護送者ノ懈怠不注
意ヨリ之ヲ覺ラサルノ罪ヲ云フ其懈怠ニ因ルトハ看守及ヒ護送
者其職務上ニ充分注意ヲ加ヘサルモノヲ云フ若シ毫モ怠タル所
ナキニ逃走シタルコト明瞭ナレハ固ヨリ其罪ヲ問ハサルナリ其怠
慢ニ因リ逃走シタルキト雖モ亦同シ然レモ此條ノ罪ハ畢竟過誤
ニ出テ其情極メテ輕キカ故ニ之レニ實
決ノ刑ヲ科セスシテ止メ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ二圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ハ輕罪以下ノ囚徒ニ係リ此項ハ重罪ノ囚徒ニ係ル囚徒ノ罪重ケレハ看守者護送者モ一層嚴密ノ注意ヲ要ス可キ者ナルヲ以テ其逃走ヲ覺ラサル罪モ稍罰金ヲ重クス

第百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付

セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避

セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪人トハ其罪既ニ發覺シテ未ダ捕ニ就カサル者ヲ云ヒ逃走ノ囚徒トハ未決已決ノ囚徒ヲ兼稱シ監視ニ付セラレタル者トハ刑期滿限ノ者ト本刑ヲ免シテ

止メ監視ニ付セラレタル者トハ併セ言フ以上ノ罪人タルコトヲ知テ竊カニ自家若クハ他所ニ藏匿シテ其刑ヲ避ケシメントスル者

ハ則チ罪人ヲ幫助シタル者ナレハ之ヲ罪セサルヲ得ス然レモ現ニ犯罪ヲ補助シタルニ非ス所謂犯罪以後ニ係ルヲ以テ其罪ヲ犯スヲ補助シタル者ニ比スレハ其情遙カニ輕シ故ニ其刑モ亦輕キニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ 重罪ノ犯罪ニ係ルハ其刑ヲ重スルノ理由ハ又前條後項ニ述フルカ如シ故ニ茲ニ復説セス

第百五十二條

他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其

罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上

六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

其罪證ト爲ル可キ物件トハ例ヘハ謀殺ノ用ニ供シタル兇器ノ類若クハ死屍或ハ貨幣ヲ偽造變造シ

タル器械若クハ犯所ニ遺失シタル犯人ノ所有品等都テ罪ヲ犯シタル證憑トナル可キ物件ヲ云フ其物件ヲ藏匿シ或ハ之ヲ湮滅シ

テ其罪跡ヲ隱蔽シ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖ル者ハ本條ノ刑ニ處ス

第百五十二條

前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬

ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第百五十一條ノ犯人ヲ藏匿シタル罪第百五十二條ノ罪證ト爲ル

可キ物件ヲ隱蔽シタル罪其犯人ノ親屬ニ係ルハ其情ニ於テ已ム能ハサルノ理由アレハ其罪ヲ論セサルナリ其親屬トハ總則第百十四條ニ定ムル所ヲ云フ

第四節

至第百五十六條

附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

附加刑ノ執行

ヲ遁ルハトハ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタル者私ニ其權利ヲ行ヒ又ハ監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背スル者ヲ云フ凡ソ刑ハ其執行ヲ爲スヲ以テ始メテ刑效ヲ生スルモノニテ獨リ刑ノ宣告ヲ爲セハ則チ刑效生ス可キニハアラサルナリ而シテ附加刑ノ如キハ犯者ヲ刑場ニ驅ツテ之ヲ執行ヲ爲サシム可キニアラサレハ實際之ヲ遁ル、ヤ

太々容易ナル可シ是レ本節ヲ設ケ荷
モ刑效ヲ薄弱ナラシメサル所以ナリ

第一百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セ

ラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス 本條ハ公權ヲ剝奪セラレ若シハ停止セラレタル者復權ヲ

得ス或ハ其停止年間ニ在テ私ニ位記勳章ヲ佩ヒ又ハ代權

士トナリ或ハ恩給ノ年金ヲ得ル等ノ (三一、三二、三三、三四、三七、三

九) 一ヲ行フタル者ヲ罰スルモノトス

第一百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背

シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 本

條ハ監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背スル者ヲ罰スルモノトス

蓋シ監視ハ主刑ヲ免シテ止タ付スルアリ死刑無期刑ノ期滿免除

ヲ得タルニ付スルアリテ其原因相同シカラスト雖モ其監視ニ付
セラレタル者之カ規則ニ違背スルキハ其原因ヲ問フコトナク只其
規則ニ違フヲ以 (三一、三二、三三、三四、三七、三九)
テ足レリトス

第一百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタ

ル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス 本條ハ

第十三條ト理由ヲ同フスルモ (九一以下)

ノナレハ別ニ解説ヲ爲サス

第五節 至第六百六十一條 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ

及ヒ所有スル罪 軍用ノ銃礮彈藥トハ其要陸海軍用

ノ故ニ一般人民ノ使用シ得キモノヲ製シ若クハ所有ス

ルハ法ノ問フ所ニアラサルナリ抑モ此等ノ物件ヲ私ニ製

造シ若クハ所有スルコトヲ禁スル所以ハ畢竟不逞ノ徒ヲシ

テ犯罪ヲ容易ニセシメ又ハ然ラサルモ其破裂等ヲ慮ルカ

爲ノ自ラ社會ニ危險ノ念ヲ生セシム是レ
太ク一般ノ靜謐ヲ保ツニ害アルカ故ナリ

第五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸
海軍ノ用ニ供スル銃破彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製
造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二
十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シ
タル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以
下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加
ス 本條ハ官命ニ依ラヌ官許ヲ受ケスシテ前述ノ軍用品其他破裂
質ノ物品ヲ製造スル者或ハ外國ヨリ輸入スル者及ヒ其物品ヲ
私ニ販賣スル者ヲ罰スルモノニテ其主要ハ此物品使用ノ目的ヲ
問フニ非スシテ其製造輸入販賣ノ所爲ヲ罰スルニ止マルモノト

ハ故ニ若シ之ヲ製造若シハ輸入又ハ販賣シタル者内亂ヲ起シ又
ハ外患ヲ爲ス可キ目的ナルヲ明了ナルルハ其各條ト較シ重キニ
從テ論ス (二五〇、二五一、二五二、四一〇)
可キナリ

第五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人
ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照
シ二等ヲ減ス 雇人職工等前條ノ罪ヲ犯スニ付正犯ノ使令ニ
應シ下手シタルモノハ本條ノ刑ヲ享ク蓋シ是
等ノ職工又ハ雇人等ハ畢竟共犯ノ性質アルモノナレ而モ其使
令ニ應スルノ原因ハ概不給料ヲ貪ル等ノ恣意ヨリ生スル者多キ
カ故ニ之ヲ共犯者ト爲サスシ (二〇九)
テ本刑ヲ輕減スルヲ定ム

第五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ
サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 前二條ノ罪ハ
共ニ輕罪ニ係

レハ總則ニ依ルルハ其未遂犯ハ罰セサルナリ然レモ前條ノ罪ハ
社會ノ靜謐ヲ害スル極メテ大ナルカ故ニ本條ヲ設ケテ以テ未遂
犯罪ト雖モ其罪ヲ (一一三)
論ス可キヲ定ム

第六十條 第五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ

所有シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

私ニ所有スルトハ唯所有スル而已ニ止マラス受托抵當若クハ賃
借等ニ依リ軍用ノ銃砲彈藥若クハ其他ノ破裂質ノ物品ヲ所藏ス
ルモノモ皆本條ニ (四三、四四、治四六二、ノ二及ヒ三)
依テ論スルヲ示ス

第六十一條 第五十七條ニ記載シタル物品ノ製

造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ

何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス 總則ニ依レハ犯罪ノ用
ニ供シタル物件ハ犯人

ノ所有ニ係ルカ又ハ所有者ナキハニアラサレハ沒收セサル例ナ
レモ本條ノ器械ノ如キハ其害ノ係ル所大ナルヲ以テ何人ノ所有
ヲ問ハス本條別ニ (四三、四四)
沒收ノ例ヲ示ス

第六節 至第七十條 往來通信ヲ妨害スル罪 人畜車馬船
舶ノ來往電

信郵便ノ通信ヲ妨害スル者ハ實ニ一般ノ便利及ヒ利益
ヲ害スルモノナルニ仍リ本節ヲ設ケテ以テ之ヲ罰ス

第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ

妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 道路橋梁河溝港
埠ハ一般人民ノ

交通ヲ便スルモノナレハ其之ヲ損壞スルハ則チ通行ノ便ヲ妨
ケ貨物運輸ノ利ヲ害スルヤ極メテ鮮ナカラサルカ故ニ本條ヲ設
ケ以テ之ヲ罰ス但本條鐵道若クハ海路ノ
一ニハ及ハサルハ別ニ正條アレハナリ

第六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若

クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ 虛妄ノ言ヲ用ヒ若クハ事ヲ

爲シテ郵便脚夫ヲ欺ク之ヲ偽計トス暴行脅迫ヲ以テスル之ヲ威力ト云フ蓋シ是等ノ所爲ヲ以テ郵便ヲ妨害若クハ阻止スルハ頗ル郵便ノ利ヲ害スルモノナルニ依リ乃チ本條ヲ以テ之ヲ罰ス

第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ

切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス 本條ハ電信ヲ妨害スル罪ヲ論ス

ルモノニテ而モ分ツテ二トス一ハ電信ノ器械ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ノ不通ヲ致シ一ハ之ヲ損壞シテ之カ妨害ヲ爲ス者是ナリ蓋シ電信ハ公私緊急ノ用ニ供スルモノナレハ之カ不通若クハ妨害ヲ爲スハ其害實ニ少カラズ是レ前條ヨリ稍重キ刑ヲ以テスル所以ナリ

第六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ

其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ

重懲役ニ所ス 軌道ヲ損壞シ若クハ木石等ヲ以テ線路ニ障害ヲ與フルハ列車ヲ線外ニ超走セシムルノ恐レアリ又點燈標章等ヲ損壞スルキハ其進止緩急ノ度ヲ失ハシムルノ危ヲ致スカ故ニ或ハ爲メニ顛覆衝突等ノ危害ヲ生セサルヲ保ス可カラズ茲ヲ以テ本條ノ刑ヲ定ム若シ爲メ瀛車ヲ顛覆セシメ人ヲ死ニ致シタルハ第六十九條ニ從テ論ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標

其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

燈ヲ爲スハ船舶入湊ノ安全ヲ妨ケ又ハ危害ヲ生ス浮標ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ浮標ヲ示スルハ船舶ヲシテ暗礁ヲ避ケサラシメ若クハ之ヲシテ暗礁ニ導クノ危害ヲ致サシムルニ足ルヘシ是レ本條ノ刑ヲ定ムル所以ナリ

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關ス

ル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照

シ一等ヲ加フ 前條々ハ常人ノ犯スニ適用シ本條ハ官吏及ヒ雇人職工ノ犯スルニ適用ス蓋シ道路橋梁郵

便電信鐵道燈臺浮標等ニ係ル職務ヲ有スル者之カ罪ヲ犯スハ尤容易ナル而已ナラス己レ其安全ヲ守ルニ任シテ反テ之カ危害ヲ爲ス其情實ニ惡ム可シ是レ本條ノ加等ヲ爲ス所以ナリ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺

傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ

處斷ス 本條ハ毆打創傷ノ各本條ト第六十二條ト較シ重キニ從テ論スルノ旨趣トス但シ第六十二條ノ罪ヲ犯シタ

ルカ爲メニ人ヲ殺傷セシメタル者素ト其殺傷ノ豫謀ナキモノタル片ハ其殺傷タル蓋シ直接ニ犯シタル罪ニアラス然ルチ本條ヲ以テ間接ニ犯シタル罪ノ間擬法ヲモ定メラル、所以ハ他ナシ其原ト罪ヲ犯スニ仍テ人ヲ殺傷セシメタルモノニ係レハナリ(二九九、以下三〇八ニ至ル)

第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪ヲ犯

シ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無

期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没スルハ許多ノ性命ヲ害シ巨萬ノ貨物ヲ損スルノ恐レアルヲ以テ其情狀極メテ重シトス故ニ止タ之ヲ顛

覆若クハ覆没シタルヲ以テ無期徒刑ニ處シ因テ人ヲ死ニ致シタルキハ之ヲ死刑ニ處スルモノトス (四一五、四一六)

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ

未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 此節

ニ記載シタル罪ハ概不公衆ノ危險ニ係リ又ハ妨害ヲ爲スモノナ
ルヲ以テ假令輕罪ノ未遂犯ニ係ルト雖モ仍ホ之ヲ宥恕スルコトナ
ク未遂犯罪ノ例ニ照シ (二二二、二二三、二二四)
テ罰ス可キコトヲ定ム

第七節 至第三百七 人ノ住所ヲ侵ス罪 家宅ハ猶城郭ノ如シ即チ人ノ賴

テ以テ居テ安ニスル所ナリ茲ヲ以テ何レノ國ニ於テモ家
宅ノ侵ス可カラサルヲ一大原則トナシ此權ヲ尊重ス故ニ
尙モ此權ヲ侵スモノアルハ宜シク法律ハ其所爲ヲ問ヒ
以テ社會ノ安全ヲ保セサル可カラズ是レ本節ヲ設クル所
以ナリ

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ

人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上

六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時 人ノ住居シタル建造物トハ人
ノ寐食ヲ爲ス家屋及ヒ其墻塀

内ヲ云ヒ人ノ看守シタル建造物トハ看守人アル社寺公舎等ヲ云フ若シ晝間ト雖モ濫リニ之ニ立入ルキハ乃チ本條ノ罪アリトス但人ノ住居セサル廢家空屋若クハ神殿佛寺等ハ本條ノ問フ所ニアラサルナリ蓋シ故ナクシテ人ノ邸宅若クハ看守人アル建造物ニ入ルモノハ先ツ惡事ヲ爲ス可キモノトノ豫想ヲ爲サシムルニ足レリ然ルチ況ンヤ此條ニ定ムル各個ノ事狀アルニ於テハ愈害ヲ致スノ恐レヲ確ナラシム故ニ夫ノ各個中一個若クハ一個以上ノ事狀アルキハ咸チ一等ヲ加フルモノトス
(三一五、三二五、三、四二五ノ一)

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ
本條ハ前條ト稍其理由チ同フスルモノナルニ仍リ別ニ解説ヲ要セスト雖モ只相異ナルモノハ晝間ト夜間

トノ別アル而已トス蓋シ夜間ニ在テハ之ヲ防止スルヲ難ク亦畏懼ノ念ヲシテ多カラシム是レ前條ヨリ重キ刑ヲ科スル所以ナリ
(三一五、三二五、三、四二五ノ一、治三四、一三三、一四八、一六二)

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

尋常皇室ノ尊キヲ侵ス猶ホ恕シ難キカ如シ然ルチ況ンヤ故ナクシテ之ニ入ルモノニ於テチヤ蓋シ如斯ノ所爲ハ之ヲ通常民家ニ入リシモノト同視ス可カラス即チ其晝間ニ在テハ第七十一條其夜間ニ在テハ第七十二條ニ照シ各一等ヲ加フルモノトス

第八節 至第七十六條 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ら犯シタル時ハ一等ヲ加フ官署ノ所分ニ因リ特別

ニ施シタル封印トハ行政司法ヲ問ハス各職務上ノ處分ヲ以テ家資分散ノ處分ヲ受ケタル家屋倉庫其他ノ物件又ハ犯罪ノ証トナル可キ物件若クハ犯則ノ物件等ニ管シ官吏ノ封緘ヲ爲シタルモノヲ云フ蓋シ本條ハ唯破棄シタルヲ以テ一種ノ罪トスルカ故ニ仍ホ其物件ヲ使用スルカ如キハ本條ノ問フ所ニアラズ而シテ其破棄ヲ爲シタル者若シ看守者ニ係ルキハ之カ職任ニ背ク極メテ太シキヲ以テ (二七五、治一六〇、一六一) 其刑一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ

又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス家資分散者モ封印ヲ破毀シテ之カ家宅等ヲ賣却シ又ハ罪証トナル可キ物件ノ封印

ヲ破毀シテ之ヲ毀壞スルカ如キ是ナリ故ニ是等ノ所爲ハ假令原ト所有者ノ行フ所ナリト雖モ一度封印ヲ爲シタル上ハ所有ノ權

公益ノ爲メ停歇セラレタリト做ス可キ (三六六、至三七一、三七八、ニ仍リ乃チ之カ刑ヲ免レサルモノトス 至三八三)

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又

ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺ラサル時

ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス本條ハ懈怠ニ因リ前二條ノ罪ヲ

犯ス者アルヲ覺ラサルモノヲ罰スルモノニテ夫ノ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル看守者ヲ罰スルト理由ヲ同フスルモノナルニ仍リ別ニ解説ヲ (二五〇) 要セズ

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪公務ヲ行フヲ拒ムニ二

種ノ別アリ一ハ現ニ公務ニ服スルモノ即チ官吏ノ職務ヲ行ハサル如キヲ云ヒ一ハ或ル職業ヲ行フモノ即チ醫師又ハ鑑定人等官署ノ命ヲ奉シナカラ其職務ヲ行フヲ拒ムヲ云フ故ニ此二種ヲ再說スルキハ則チ第一種ハ現ニ服ス可

キ公務ヲ行ハサル者ニシテ其第二種ハ或ル場合ニ於テ命
セラル、公務ヲ行ハサル者ニ係ル而シテ一ハ官吏ノ本分
ニ背キ一ハ國民ノ公義ニ戾ルモノナレ
ハ共ニ同シク之ヲ罰セサル可カラズ

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル

權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セ

サル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

内亂若クハ兇徒聚衆等地
方ノ騷擾ニ際シ檢事又ハ
地方官ヨリ鎮撫ノ爲メ出兵ノ要求ヲ受クルニ際シ陸海軍ノ將校
タル者之ヲ肯セサルハ其鎮壓ノ機ヲ失シ爲メニ兇徒ノ蔓延ス
ルノ恐レアルヲ以テ茲ニ本刑ヲ定ムルモノトス但其要求ヲ肯セ
サル意兇徒ヲ助ケントスルカ如キ故意ニ出ルハ乃チ兇徒ノ共
犯ヲ以テ論セ (三七四)
サル可カラズ

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身

體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ

免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ

處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セ

シメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル

者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

兵役ニ服ス
ルノ義務ハ
乃チ人民タルノ公務ナレハ苟モ之ヲ忌避シ得ルノ理ナシ故ニ若
シ故サラニ身体ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ或ハ伴テ狂トナリ或ハ
嚙啞ヲ擬シ又ハ他人ニ囑託シテ氏名ヲ詐稱セシメ其身ニ代ツテ
徵募ニ應セシムル等苟モ詐僞ノ所爲ヲ以テ兵役ヲ違レントスル
者ハ皆本條ノ刑ニ處ス若シ免役ヲ圖ルカ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造
シ行使シタル罪ハ第一百十六條ニ照シ一等ヲ加ヘ其他人ノ囑託ヲ

受ケテ徵募ニ應シタル者ハ官署ヲ欺罔スルモノ (一〇九、二一六)
ナルニ仍リ第二百三十一條ノ例ニ照シテ所斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ
解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之
ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
醫師化學士其他職業ノ者官署ノ命令ニ應シ其職業ニ付テ斷証鑑
定ヲ爲スハ是レ則チ一種ノ公務トス故ニ例ヘハ醫師ヲシテ毒殺
ノ死屍ヲ解剖セシメ化學家ヲシテ之ヲ分析セシメ又ハ筆跡若ク
ハ印判職業ノ者ヲシテ筆跡又ハ印判ヲ鑑定ス可キノ命令アルハ
ハ謹テ之ニ應ス可キモノナルニ仍リ (治一九二)
若シ是ニ背クハ即チ本刑ヲ科ス

第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スル
コトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ

亦前條ニ同シ 曾テ知得タル事實ヲ供述セシメ之カ口證ヲ資
ルハ裁判上最モ必要ナルモノニ付證人ハ裁判

所ノ命令ニ從ヒ之カ証述ヲ爲スノ義務アリ然ルチ治罪法第百八
十一條第百八十二條等ノ事故ナクシテ之ヲ首肯セサル者ハ裁判
ノ終結ヲ妨クルモノナル (二二八、三六〇、治二七〇、一八三)
ニ仍リ乃チ本刑ヲ科ス

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル
船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅
ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ
之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ
一等ヲ減ス 傳染病ノ急劇ナルハ曾テ世人ノ恐ル、所ナリ故
ニ苟モ之カ撲滅若クハ豫防ヲ忽ニスルハ其危

害言フ可カラス而シテ醫ヲ行フモノハ之ヲ救防スルノ義務アリ
然ルヲ之カ病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳スルヲ拒ムハ爲メ
ニ其害ヲシテ多カラシムルニ至ル可シ是レ本刑ヲ定ムル所以ナ
リ但其獸醫ニ付テ一等ヲ減スルハ其獸類ノ如キハ畢竟財産ノ一
部ニ位スレ厄其貴重ナルル人 (四二七、ノ九)
命ノ比ニアラサレハナリ

第四章

自第百八十二條至
第百三十六條

信用ヲ害スル罪

凡ソ社會ノ平和
ヲ保ツハ蓋シ信

憑ヲ確クスルニ在リ信憑ヲ傷フモノハ詐僞ヲ行フヨリ甚シ
キハナシ茲ヲ以テ本章ハ苟モ詐僞ノ事物ヲ以テ社會ノ信用
ヲ害スル者ハ其目的ノ直接ナルト間接ナルトヲ論セス咸ナ
信用ヲ害スルノ罪アリトス而シテ本章分ツテ九節トス第一
貨幣ヲ偽造スル罪第二官印ヲ偽造スル罪第三官ノ文書ヲ偽
造スル罪第四私印私書ヲ偽造スル罪第五免狀鑑札及ヒ疾病
證書ヲ偽造スル罪第六偽證ノ罪第七度量衡ヲ偽造スル罪第
八身分ヲ詐稱スル罪第九公選ノ投票ヲ偽造スル罪是ナリ

第一節

至第百九
十三條

貨幣ヲ偽造スル罪

貨幣トハ金銀
銅ノ三貨及ヒ

紙幣ヲ汎稱シタルモノトス蓋シ貨幣ヲ製造スルハ政府
ノ特權ニシテ他人ノ敢テシ得可キニアラサルナリ故ニ
以上ノ三貨ヲ價額量目眞貨ニ違フコトナク製造スルモノ
ト雖モ皆之ヲ偽造トス而シテ銀貨ヲ金貨ニ紛飾シ紙幣
ノ文字ヲ描改シテ其變造ヲ爲スカ如キ亦之ヲ偽造ノ罪
トナス抑モ貨幣ハ人民ノ賴テ以テ商業交易ノ媒トナス
モノナルニ仍リ若シ之カ偽造ヲ爲シ其信用ヲ損スルカ
如キハ社會ノ平和ヲ害スルコト極メテ甚シキヲ以テ茲ニ
本節ヲ
定ム

第百八十二條

内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シ

テ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

内國通
用金銀

貨紙幣トハ法律ヲ以テ現ニ通用ヲ命令シタルモノニ係ル故ニ古
金銀若クハ舊時ノ紙幣ヲ造ルカ如キハ本條ノ問フ所ニアラサル
ナリ而シテ偽造トハ渾テ私造ニ係ルモノナニ云ヒ變造トハ金銀貨
ノ邊縁ヲ剪錯シテ利ヲ圖リ紙幣ノ字樣ヲ挑剗描改シタルモノヲ
云フ此ノ偽造變造ヲ爲シタル者既ニ行使シタルニ於テハ乃チ偽
造ト變造トヲ分チ以テ之ヲ刑ス蓋シ偽造ト變造トニ付刑ニ著シキ
別アル所以ハ他ナシ偽造ハ其機械ノ整フニ於テハ多數ノ製造ヲ
爲シ得可シト雖モ變造ニ於テハ却テ其數ノ多キヲ致ス可能ハス
從テ其害ノ及フ所亦偽造ノ如ク
甚シカラサル可キヲ以テナリ

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ

偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ニ處ス 外國ノ金銀貨ノ如キハ假令內國ノ通用ヲ爲ス
モ是レ唯人民ノ私諾ニ係リ現ニ法律ヲ以テ通

用ヲ命スルモノニアラサレハ其害ノ及フ所モ多ク開港場等ノ外
ニ出テスシテ亦少キニ屬ス茲ヲ以テ其偽造變造ヲ爲シ行使スル
者ハ各前條ニ照
シテ一等ヲ減ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽

造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別

ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス 官許ヲ得テ發行スル
銀行紙幣ハ即チ全國

ノ通用ヲ爲スモノニテ其信用ハ眞ノ貨幣ト敢テ異ナルコトナシ仍
テ之ヲ偽造スル者ハ第百八十三條第一項ニ照シ其變造ヲ爲ス者
ハ同條第二項ニ照シテ所分ス其外國ノ銀行紙幣（洋銀切手モ包
含ス）ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ第百八十三條ト理
由チ同フスルモノナルニ仍リ乃チ同條
ニ照シ其偽造ト變造ト區別シテ所斷ス

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタ

ル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ

重禁錮ニ處ス 内國通用ノ銅貨ヲ偽造若クハ變造シテ行使スルハ其實貨ヲ偽造スルノ點ニ於テ相逕庭スル

ナキカ如シ然ルナ今之ヲ貨幣ヲ偽造變造シテ行使スルモノヨリ輕キ刑ニ處スル所以ノモノハ蓋シ其社會ニ害ヲ與フルヲ鮮少ナル可クシテ其所犯亦輕キニ屬スルカ故ナリ

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造

已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ

減シ其未タ成ヲサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各

三等ヲ減ス 前條々ハ偽造變造既ニ成リ且之ヲ行使シタル者ヲ罰ス本條ハ偽造變造ノ器械ヲ豫備シタルヨリ其偽

造變造ノ全ク成ル迄ノ間ヲ三期ニ分チ以テ之カ刑ヲ科スルヲ定ム第一偽造變造既ニ成リテ未タ行使セサル者第二偽造變造ノ未タ全ク成ラサル者第三偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者是ナリ則チ右三期ノ場合ヲ例示スル左ノ如シ (一一一)

第一 既造未 行使者	偽造	有期徒刑	重懲役	二年以上 五年以下	二年以上 五年以下	二年以上 五年以下
	變造	五年以上 十年以下	重懲役	三年六月以上 九年以下	三年六月以上 九年以下	三年六月以上 九年以下
第二 未成者	偽造	重懲役	輕懲役	一年以上 三年以下	一年以上 三年以下	一年以上 三年以下
	變造	一年以上 三年以下	重懲役	二年六月以上 五年以下	二年六月以上 五年以下	二年六月以上 五年以下
第三 豫備未 著手者	輕懲役	輕懲役	重懲役	一年以上 二年以下	一年以上 二年以下	一年以上 二年以下
	重懲役	重懲役	重懲役	二年六月以上 五年以下	二年六月以上 五年以下	二年六月以上 五年以下

内國貨幣及ヒ銀行紙幣 第百八十二條 第百八十四條

外國貨幣及ヒ銀行手形 第百八十三條 第百八十四條

内國通用銅貨 第百八十五條

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ

受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可
キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工
ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

ト雖モ偽造變造ノ情ヲ知ル者ハ乃チ共犯ヲ以テ論ス可キモノト
ス然レモ職工又ハ雜役者ハ畢竟給料ノ爲メニ正犯者ノ使令ニ從
テモノナレハ其情稍輕キヲ覺フ茲ヲ以テ職工ハ其正犯ノ受ク可
キ刑ヨリ一等ヲ減シ雜役ニ供スルモノハ二等ヲ輕減スルヲ聽
シ本條別ニ刑名ヲ定メテ以テ總則ノ例外ヲ示スモノトス但雇テ
受ケタルニアラスシテ共謀シタル職工若クハ雜役者ハ即チ共犯
者ト (二〇四、一〇九)

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋

ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ

減ス 內國通用ノ貨幣(內國及外國ノ)ヲ偽造變造ヲ爲ス犯人

タルノ情ヲ知リ之ニ房屋ヲ給スルモノハ乃チ其偽造變造
ヲシテ容易ナラシムルモノナルニ仍リ其事ニ關セスト雖モ又財
ヲ受ルヲナシト雖モ其犯人ノ受ク可キ刑ニ二等ヲ輕減シ所斷ス
可キヲ (二〇九)

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル

者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ 前數條ニ記載スル貨幣ヲ偽造變

造シタルヲ外國ヨリ內國ニ輸入
スル者ハ例ヘ躬テ其偽造變造ニ着手セスト雖モ爲メニ社會ノ害
ヲ爲スニ至ツテハ彼是相等シキヲ以テ乃チ偽造變造ノ刑ヲ以テ
所斷ス可キ
ヲ定ム

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之

ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス 偽造變造ノ情ヲ知テ取受スルモ

ノトハ即チ他人ノ依託ニ仍テ又ハ低價ヲ以テ之ヲ買取シ遣拂フモノヲ云フ抑モ是等ノ者ハ親ラ偽造變造ノコトニ管カレモノニアラズト雖モ一個ノ利欲ノ爲メニ社會ニ害ヲ與フヤ鮮カラサルナリ茲ヲ以テ既ニ行使シタルモノハ偽造變造シタルモノ、刑ニ二等ヲ減シ未タ行使セサル者ハ三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 本

ハ總則第三十八條ニ定ムル所ニ依リ本條別ニ記載スルモノニテ即チ第百三十五條ト其理由ヲ同フスルモノナルニ仍リ別ニ贅セ

大 (三四、四〇)

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ

本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス 貨幣ヲ偽造變造シタル

者又ハ輸入シタル者若クハ取受シタル者未タ之ヲ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス可キヲ示スモノニテ即チ總則(第八十八條)ニ所謂本條別ニ自首ノ例ヲ掲グルモノトス而シテ其義理如何ンニ至ツテハ既ニ第百二十六條ニ説述スル所ト相同シキヲ以テ (三四、四〇) 茲ニ贅辨ヲ爲サズ

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ

變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス
 本條ハ眞ノ貨幣ナリト信シテ之ヲ取受シ后チ其假ナルヲ知ルモ
 損失ヲ厭フテ之ヲ官ニ届ケス行使シタル者ヲ罰スルノ例ヲ示ス
 但其ノ罰金ハ其寡數ヲ二圓ト爲スカ故ニ假令事壹厘ノ銅貨ニ係
 ルトキト雖モ仍ホ此額ヲ下スヲ得ス且其二圓以上ニ至ツテモ
 價格ニ倍ノ罰金ヲ科スルモノニテ裁判官ノ斟酌増減シ
 得可キモノニアラス即チ之ヲ刑法上一種ノ特例トス

第二節 官印ヲ偽造スル罪 御璽國璽各官署
 印其他記號印

章影蹟等之ヲ官印トス蓋シ私印ニ對スルノ義ナリ抑モ官
 印ノ效用タル最モ一般ノ信憑ヲ置クモノナルニ仍リ若シ
 之ヲ偽造シ又ハ影蹟ヲ盜用シテ使用スルキハ公衆ノ信用
 ヲ害シ或ハ緊要ノ事務ヲ妨クルニ至ラン是レ本節ヲ設ク
 ルノ所以ナリ

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用

シタル者ハ無期徒刑ニ處ス 御璽トハ 天皇陛下ノ御印ニ
 シテ天皇御璽ト刻シ純ラ勅任
 官ノ辭令書等ニ捺用セラレ國璽トハ大日本國璽ト彫リ勅章又ハ
 外交ニ付テノ書ニ鈐セラレ蓋シ是等ハ天下ニ頒行シ以テ一般ノ
 信憑ト爲スモノナリ故ニ若シ之カ偽造ヲ爲シ又ハ偽璽ヲ用ユル
 カ如キハ獨リ皇威ヲ輕ンスル而已ナラス爲ニ不測ノ禍ヲ惹カン
 モ知ル可カラス是レ本條ニ於テ
 最モ重キ刑ヲ定ムル所以ナリ

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使

用シタル者ハ重懲役ニ處ス 各官署ノ印トハ官省院使府縣
 廳裁判所郡區役所其他各部署
 課等ノ印章ヲ云フ蓋シ官署ノ大小ニ依リ之カ輕重ノ別ナキ能ハ
 サルカ如シト雖モ要スルニ其一般ノ信用ヲ害スルニ至ツテハ則
 チ一ナルニ仍リ以テ本條ノ刑ニ處シ其輕重ノ如キ (二〇六)
 ハ實際刑期ノ長短ヲ以テ之カ平衡ヲ爲ス可キナリ

第九十六條

產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章

ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ

其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁

錮ニ處ス

產物商品ニ押用スル官ノ記號印章トハ例ハ省使府縣等ニ於テ發賣又ハ製造シタル物產即チ生絲製茶魚肉

獸肉又ハ織物其他度量衡等ニ其物品ノ確實ナルヲ表記スルモノ

ヲ云ヒ官ノ書籍什物ニ押用スル記號印章トハ官ノ物件タルヲ示

スニ用ユルモノヲ云フ則チ均シ官ノ正印ニアラサル記號印章

ヲ偽造シタルモノト雖モ一般信用ノ點ニ至ツテハ彼是厚薄ノ別

ナキ克ハス故ニ第一項第二(三〇六、二一三)項ト分ツテ輕重ノ別ヲ爲ス

第九十七條

御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用

シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

影蹟ヲ盜

用シタルモノトハ真正ノ印ヲ探テ之ヲ押捺シ其印影ヲ用ユル者

ヲ云フ之ヲ印章偽造ノ刑ニ照ストキハ稍輕キニ屬ス故ニ前三條

ノ本刑ヨリ各一等ヲ減ス然レモ其看守者ニシテ自ラ盜用スルカ

如キハ其職務上ノ信任ニ背戾スルモノニテ其情頗ル輕カラサル

カ故ニ前三條

ノ本刑ニ處ス

第九十八條

官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ

郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シ

タル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

各種ノ印紙トハ證券印紙烟草印紙毒藥劇藥印紙類

曆印紙等ヲ云ヒ界紙トハ訴訟用對紙證券界紙等ヲ云フ蓋シ印紙
界紙郵便切手等ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ使用スル者ハ皆信
用ヲ害スルニ足ルモノナルカ故ニ本條ノ刑ニ處ス蓋シ本條ニ於
テ其偽造者變造者又ハ使用者ノ刑ヲ各別ニ定メサルハ畢竟其擬
スル所輕罪ニ係ルヲ以テ亦煩シキニ涉ルヲ免レサルカ故ニ其刑
ノ區域ヲ廣濶ニシ多寡長短ノ間ニ於テ參酌以テ其刑ヲ科セシム

第百九十九條

己ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便
切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ニ處ス

一度使用シタル印紙切手ノ類ヲ剝取消印シ汚點ヲ
洗滌シ再ヒ之ヲ貼付シテ利ヲ圖ル者ハ之カ偽造變
造ヲ爲シ又ハ知テ使用スルモノニ比スレハ其罪稍輕ニ屬ス且其
害ノ及フ所ハ亦大ナルニ至ラヌ是レ本條單ニ罰金ノ刑ニ處スル
所以
ナリ

第百九十九條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未

タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 此節ニ
記スル

所ノ罪ハ一般ノ信用ニ關スル者ナレハ假令輕罪未遂犯ト雖之ヲ
不問ニ付ス可カラス故ニ總則第百十三條ニ依リ茲ニ之ヲ明記ス

第二百一一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ

處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 本條モ亦
總則第三

十八條ニ依リ茲ニ之ヲ揭載スルモノニテ第百三十
五條等ト其理由ヲ均フスルモノナレハ復タ贅セス

第三節 至第二
百七條 官ノ文書ヲ偽造スル罪 官ノ文書ト
ハ即チ詔書

各官署ノ文書公債證書地券等渾テ官署ヨリ頒行スルモ
ノヲ云ヒ偽造トハ増減變換毀棄ヲモ包含スルノ義トス

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ

無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

詔書トハ 天皇陛下ノ勅旨ノ文書ヲ云フ偽造ハ全

ク無キナ有ルカ如ク作爲シ増減トハ其文言ヲ添加削除シ變換トハ文意ヲ更メ筆畫ヲ改描スルモノナニ云ヒ棄毀トハ其全部幾部ヲ破毀切斷シタル等ヲ云フ蓋シ此條ノ罪ハ唯詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ棄毀シタルヲ以テ無期ノ徒刑ニ處シ敢テ行使スルヲ要件トセス夫レ文書ノ貴重ナル詔書ニ超ルモノナシ然ルヲ謀ル所アツテ之ヲ偽造若クハ増減變換シ又ハ圖ル處ノモノナシト雖モ之ヲ毀棄スルカ如キハ實ニ皇威朝憲ヲ憚カラサ
ルモノト云フ可シ是レ本條ヲ設クル所以ナリ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

官ノ文書トハ官省院使府縣廳以下郡區役

所等ニ至ル迄凡ソ公務ヲ行フ官署ヨリ發スルモノヲ云フ蓋シ本條ノ罪ハ之ヲ偽造シ之ヲ行使スルノ二要件アルヲ緊要トス故ニ

苟モ行使スルコトナケレハ偽造ノ罪ノ論ス可キモノナシトス然レモ其行使ノ目的假令事實ニ害ナキモ仍ホ本條ノ罪アリトス但其棄毀ノ全部ナルト幾部ナルトニ (一九六、一九八、二〇六) 因リ罪ノ成立ニ關スルコトナシ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文

書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲

役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

公債證書

ハ新舊公債秩祿公債金札引替公債金祿公債起業公債等ヲ云ヒ其他官吏ノ公證シタル文書トハ地券ノ裏書ヲ作爲シ証書ニ戸長ノ公証ヲ作爲スルカ如キ是ナリ而シテ無記名ノ公債証書ニ係ルハ刑一等ヲ加フル所以ハ畢竟其所有者ヲ公認セサルモノナレハ彼是展轉ノ開發見檢出ノ至難ナルニ因リ公衆ノ信用ヲ害スルコト極メテ多カル可キヲ以テナリ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ 自己ノ管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ

行使スル如キハ獨其職任ニ背ク而已ナラス其爲シ易クシテ防キ難キノ恐レヲ有スルヲ通常ノ比ニアラサレハ乃チ茲ニ一等ヲ加フルヲ定ム

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重

キニ從テ處斷ス 凡ソ官ノ文書ヲ偽造スルコトハ官印ヲ偽造スルニ想像ナカル可カラス是レ本條ニ罪ノ併發スルトハ之カ一ノ重キニ從ヒ所斷ス可キヲ示スモノトス

ルニアラサレハ必ス之ヲ盜用スルナル可シ

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ

輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ

付ス 此節ニ記載スル所ハ概テ重罪ナリト雖モ而モ減輕シテ輕罪ニ入ルモノナシトス可カラズ故ニ本條減輕ニ依テノ四

字ヲ加フ而シテ其監視ニ付スルヲ付テハ變ニ屢々看來ル所ナレハ亦敢テセズ

第四節 至第二百 私印私書ヲ偽造スル罪 私印トハ官印ニ相

對スルノ稱ニシテ即チ各個ノ人民又ハ法律上擬似ノ人ト爲ス銀行會社等ノ印章ヲ云フ私書トハ民間凡百ノ證書契券ヲ總括ス但毀棄シタルモノハ第四百二十條ニ依テ論ス

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

本條モ猶

官印ノ如ク偽造使用ノ二件ヲ兼有スルニアラサレハ其罪ヲ論セサルナリ抑モ本邦ノ習俗實印ヲ信スルコト頗ル厚ク或ハ實印ナキモノハ一片ノ反古紙ト同視スルニ至ル如此信憑アルモノヲ偽造シ及ヒ使用スルハ公衆ノ信ヲ害スルヤ最モ多カル可シ是レ本條ノ刑ヲ定ムル所以ナリ但其盗用ニ(四二四)付テハ第百九十七條ノ理由ト同シ

第二百九條

爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證

書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ

増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦

同シ

本條ニ記スル所ノモノハ僅ニ一片ノ證書ト雖モ直ニ幾多ノ金額ニ代ル可キモノニシテ其信用アルモノニ至ツテハ

寧ロ紙幣ト效用ヲ等シクスルモノト云フ可シ則チ如此一種緊要ナル證書ヲ偽造スルモノハ其公衆ノ信用ヲ害シ商業ヲ妨クルコト鮮少ナラサルカ故ニ普通ノ私証ヲ偽(四二四)造スルモノ、刑ヨリ更ニ重キニ處ス

第二百十條

賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關ス

ル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ

四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル

者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

此條ニ揭クル所ハ通常ナル權利義務ノ證書ニ係リ或ハ手簡又ハ

單一ナル各種ノ受取書等ニ係ル則チ是等ノ證書ヲ偽造變換増減シテ行使スルモノハ咸チ一般ヲ害スルニ足ルモノナレハ其通常

ノ証書ト較スルトキハ聊輕重ノ別ナキ能ハス茲
ヲ以テ第一項第二項ヲ分チ以テ之カ平衡ヲ保ツ

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシ
テ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
此條ヨ云フ所ハ曩ニ屢述シ來 (二二三)
ル所ナレハ別ニ說述ヲ須ヒス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑
ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 此條
前條ニ (三八) 同シ

第五節 至第二百 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造

スル罪 免狀トハ米商會所開業免狀版權免許狀其他諸學
術ニ管スル卒業免狀ヲ云ヒ鑑札トハ諸營業ニ管

スル各種ノ鑑札ヲ云フ而シテ此等ノモノハ人ノ依テ以テ
信憑トスルノ具ナレハ之ヲ偽造シテ行使シタル者ハ以テ
公衆ノ信用ヲ
害スル罪トス

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以
上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ
盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス
免狀鑑札ハ概ネ免許料鑑札料ヲ納メテ之ヲ受ク可キモノアリ又
試験合格シテ之ヲ受クルモノアリ然ルニ其金圓ヲ納ムルヲ厭
ヒ若クハ學藝ノ達セサルニ免狀鑑札ヲ偽造シテ行使スル者ハ即
チ官ヲ欺罔シ公衆ノ信用ヲ害スルノ甚シキモノナレハ其情重シ
ト雖モ唯之ヲ偽造シテ行使スル而已ナルキハ稍輕キヲ以テ本條
ノ刑ニ處ス若シ爲ニ官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル時ハ別ニ偽造

官印ノ各本條即チ第九十八條以下ニ依リテ其刑ニ處ス可キナリ

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

本條ハ免狀鑑札ヲ偽造スルニ非スシテ之ヲ受ケンカ爲メ屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他種々詐偽ノ所業ヲ以テ遂

ニ之ヲ受ケタル者ハ同ノ官署ヲ欺罔スル者ナリト雖モ前條偽造ニ比スレハ仍ホ輕キヲ以テ其半減即チ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ未ダ免狀鑑札ヲ受ケサル前其詐偽發覺シタルキハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スル者トス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ

加フ免狀鑑札ヲ下付ス可キ官吏ハ其之ヲ受ケントスル者ノ身分等ヲ審明調査ス可キノ任アルモノナリ然ルニ其詐偽ノ情ヲ知テ之ヲ下付スルヤ其情更ニ重シ故ニ前項ノ刑ニ一等ノ重ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ

用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ

爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造スルトハ例ヘハ証人又ハ鑑定人トシテ裁判所ニ呼出

サレタル者其義務ヲ免カレン爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒテ診斷書ヲ詐爲スル者等ニテ以テ官吏ヲ欺カントスルニ出ツ即チ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス本條ノ刑ニ處ス但其詐偽ヲ用ヒサルモノハ第七十九條第八十條ニ從テ止タ罰金ニ處ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一
等ヲ加フ醫師タル者公務ヲ免カレントスル者ノ囑託ヲ受ケ疾
病ナラサルニ其證書ヲ造リ交付シタル時ハ其情稍重
キヨ仍リ一等
ヲ加ヘテ處ス

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病
ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ
其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各
一等ヲ加フ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使
スルモノハ同ク疾病ノ證書ヲ偽造スルモノナルモ
前條ニ比スレハ其關係スル所大ニシテ亦第百七十八條ニ載スル
所ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ免役ヲ圖
リタル者ノ比ニ非ス故ニ其刑重シ但其
囑託ヲ受ケタル醫師ニ於ルモ亦同シ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換
シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ本條ハ免狀鑑
札ヲ偽造スル

ニ非ス眞正ナルモノヲ得テ其効力ノ既ニ盡キタルモノヲ變換シ
若クハ其條件ノ限リアル多寡ヲ増減シテ之ヲ行使シタル者ヲ云
フ例ハ酒類請賣鑑札ヲ酒造鑑札ト改メ或ハ明治十二年一季ノ
免狀ヲ描改シテ十四年トナシ又ハ診斷書ニ輕症トアルヲ重症ト
ナスカ如シ是等ノ處爲ハ決シテ偽造シタルト
異同アルヲナケレハ之ヲ偽造ト同刑ニ處ス

第六節至第二百
二十六條 偽證ノ罪偽証トハ証人トシテ裁判所
ニ呼出サレタルモノノ裁判官
ノ面前ニ於テ治罪法第二百八十七條第百八十條ニ從ヒ宣
誓ヲナシタル後自己ノ爲ニシ若クハ人ノ爲ニスルヲ問ハ
ス不實ノ陳述ヲ
爲ス罪ヲ云フ

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼

出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シ
 テ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス 証人ナル
 者ハ裁判上必要ナルモノニシテ裁判官ノ依テ以テ心証ヲ資ル所
 ノ具タリ故ニ証人ハ宣誓ヲナシ公廳正直以テ見聞ノ事實ヲ述フ
 可キモノトス是ヲ以テ治罪法第百八十一條ニ於テ務メテ其嫌疑
 アル者ヲ忌避シ其第百八十二條ニ於テハ供述ヲ爲スノ性格ニ乏
 シキ者ヲ除棄シ以テ之カ証述ヲ正確ナラシム故ニ若シ証人ニシ
 テ被告人ヲ曲庇スルカ爲メニ故ラニ事實ヲ掩蔽スル時ハ其害或
 ハ測ル可カラサルコト至ラニ是レ本條其曲庇スル所ノ罪種ニ應シ
 テ之カ罰ヲ定ムル所以ナリ但シ裁判官ニシテ被告人ヲ曲庇シタ
 ルハ第百八十六條ニ依ル

一重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上三
 年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 重罪ニ該ル者ハ謀殺放火強盜等兇殘ノ甚シキ者ナリ故ニ之ヲ曲庇スル者其罪重シ

二輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一
 年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 輕罪ノ刑ハ禁錮五年ニ止マリ加等スルモ猶ホ七年ヲ出テス故ニ之ヲ曲庇スル者其情稍輕シ

三違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ
 本條ニ依テ處斷ス 違警罪ニ該ル被告人ヲ曲庇シテ其罪ヲ免カレシメントスル者其情最モ輕シ
 シ (四二五ノ一二)

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレ
 タル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
 前條ニ記載シタル偽證ノ爲メ被告人其正當ニ受ク可キ刑ヲ免カ
 レタル時ハ其偽證者已ニ目的ヲ達シ得タルヲ以テ前條記列スル

所ノ刑ニ照シ
各一等ヲ加フ

第二百二十條

被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタ

ル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

前條列スル所ハ被告人ヲ
曲庇スル者ノ罪ナリ本條

偽証シテ被告人ヲ陷害スルハ其害甚ク大ニシテ曲庇ノ比ニ非ス
仍ホ其罪ヲ三種ニ分テ左ニ記列ス裁判官ノ陷害シタル者ノ如キ

ハ第二百八十
六條ニ載ス

一重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

重罪ノ刑ニ陷ラシムル爲メ偽證シ
タル者其情甚ク重ク其害至大ナリ

二輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上

二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

輕罪ニ陷ルノ偽証ヲ
ナシタル者ハ稍輕シ

三違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以

上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

違警罪ニ陷ルノ偽証ヲナシタル
者最モ輕クシテ其害少小ナリ

第二百二十一條

偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタ

ル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑

ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑

ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

前條ニアル偽
証ノ爲メ被告

人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ其被告人
ノ受ケタル刑ニ反坐ス例ヘハ被告人輕懲役ニ處セラレタル時ハ

偽証者ヲ輕懲役ニ處スルノ類ナリ然レモ若シ其被告人一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處セラレタルモ如キ之ニ反坐スレハ第二百二十條第二ノ例ニ照シテ六月以上二年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス然ル所以ノモノハ反坐ノ爲メニ刑ヲ輕減セラレ可キノ理アラサレハナリ

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スヲ得ス

本項ハ偽證ノ刑期限内ニ於テ發覺シタルヲ云フモノニテ此場合ニ於テハ裁判官ノ意見ヲ以テ現ニ經過シタル日數マテニ減スルヲ得例ハ八年ノ輕懲役ニ處シタル者六年ヲ經テ偽証發覺スレハ其經過シタル六年ニマテ減シテ六年ノ輕懲役ニ處スルノ類ナリ而シテ又前項ト同ク被告人六年ノ輕懲役ニ處セラレタル者一年半ヲ經テ偽証發覺スルニ之カ經過シタル一年半ニ減スルハ第二百二十

十條ノ第一ノ例ヨリ輕シ仍ホ其例ニ照シテ二年ノ重禁錮十圓ノ罰金ヨリ減スルヲ得サルナリ

第二百二十二條

偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレ

タル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル

前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

被告人ヲ死刑ニ處ス

ニ非スト雖モ偽証ノ爲メ終ニ死刑ニ處セラレ、ニ至リタルハ其偽証者ヲテ死刑ニ反坐セシムルハ甚タ酷ナリ如何トナレハ死刑ニ處セラレ、ハ素ト其意外ニ出タルモノナレハナリ故ニ一等ヲ減シテ無期徒刑ニ處ス而シテ未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時其被告人ニ及ホサントセシ害ハ回復スルヲ得テ社會ヲ害スル亦幾分輕シト謂フ可シ故ニ又一等ヲ減シテ有期徒刑ニ處ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シ

タル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス 死刑ニ陷ル、目的ヲ以テ偽証ヲナシタル者素ヨリ恕ス可キナシ故ニ之ヲ死刑ニ反坐ス然レモ其未タ刑ヲ執行セサル前ニ發覺シタル時ハ一等ヲ減スルハ猶ホ前項ニ述ルカ如シ

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 第二百十八條處ハ刑事ニ關スル偽証ニシテ本條ハ民事商事行政裁判ニ付キ証人トシテ呼出サレタル者偽証ヲナシタル時ノ處分ニ係ル是等ノ者ハ其害原告被告ノ一方ニ損失ヲ被ラシムルニ止リ刑事ノ如キ其害被告人ノ身体ニ及ホスノ比ニ非ス故ニ其刑輕シ

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出

サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記

載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス 事物ノ良否若シハ價値其他各種ノ鑒定ヲ

命セラレタル者又ハ外國人等國語ニ通セサル者或ハ瘖啞者ノ爲ニ通事ヲナス者故ラニ事實ヲ掩蔽シ又ハ詐偽ノ陳述ヲナシタル時ハ事偽証ト異ナリト雖モ其害ノ及フ處同一ナルヲ以テ被告人ヲ曲庇スルト陷害スル爲ト民事商事行政裁判ニ關スルトニ區別シ第二百十八條以下ノ各條ニ照シテ處斷スルナリ

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ

テ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦

偽證ノ例ニ同シ 賄賂其他詐欺脅迫締約威權等ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証若シハ詐偽ノ通事鑒定ヲナサシ

メタル者ハ自ラナスニ非スト雖モ其情同シ故ニ之ヲ自ラナスト同一ノ刑ニ處ス

第二百二十六條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者

其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル

時ハ本刑ヲ免ス

偽証若クハ詐僞ノ鑿定通事ヲナシタリトモ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前過テ改メテ

自ラ之ヲ首出シタル時ハ其裁判直ニ回復シテ正當ニ歸スルヲ以テ爲メニ害ヲ及ホスコトナシ故ニ一般ノ自首ト異ニシ各其本刑ヲ

免 (八八)

第七節

至第二百三十條

度量衡ヲ偽造スル罪

度量衡ノ三器ハ學術商業ノ

別ナク百般ノ事依テ以テ標準ヲ取ル所ノ具タリ故ニ官ニ定規アリ檢印シテ之ヲ發行スル者ナレハ最モ人民ノ信ヲ

置クモノナレハ之ヲ偽造スレハ則チ信用ヲ害スルニ足ルモノナリ

第二百二十七條

度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣

シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ

偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照

シ重キニ從テ處斷ス

度量衡ノ三器ハ明治八年第三百十五號ヲ以テ取締規則等ヲ布告サレ官許

ノ製作所賣捌所ノ外之ヲ製作販賣スルヲ許サス又官ノ檢印アル者ニ非レハ使用スルコトヲ得サルナリ故ニ私ニ之ヲ製作シ若クハ

眞正ノモノヲ得テ斛斗ノ縁邊ヲ削リ斗概ヲ修復シ尺度ノ目ヲ改メ秤量ノ緒紐懸錘ヲ替ヘ其定規ヲ増減シテ販賣シタル者ハ則チ

一般ヲ欺キ公衆ヲ害スト爲ス又偽造ノ爲メニ官ノ印章記號ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各條ト比較シテ重ニ從テ科

スルモノトス但シ偽造シタル而已ニテ定規ヲ増減シ及ヒ販賣
セサル時ハ本條ノ問フ所ニ非ス其物件ヲ沒收スルニ止ル而已

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販

賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス 本條ハ偽造變造ノ情ヲ知テ販賣

シタル者ニ係ル其所爲偽造變造シタル者ニ比スレハ較輕シ故ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡

ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 商賈農工ニシテ偽造若クハ

變造シテ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ之ヲ商工農
業上ニ使用スルノ目的ナルヲ推知ス可シ故ニ止タ之ヲ所有シ
タル而已ヲ以テ罪トス

以テ罪トス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財

ヲ以テ論ス 偽造變造ノ度量衡ヲ用ヒテ賣買交換等ヲ爲シ因テ
利ヲ得タル者ハ即チ人ヲ欺瞞シテ財ヲ得ル者ナレ

ハ詐欺取財ヲ以テ論シ第三百九十條ニ依テ處斷ス仍ホ (四三、
其財物ハ犯罪ニ因テ得タル物件ナレハ沒收セラル可シ 四四)

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又

ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各

一等ヲ減ス 本條ハ職工等人ノ囑託ヲ受ケテ偽造變造ヲナシタ
ル者ナレハ造意ニ非ス唯之ヲ助ケ成サシメタル者

タリ故ニ其情亦自
ラ輕シ一等ヲ減ス

第八節 至第二百三十二條 身分ヲ詐稱スル罪 身分ハ人々定分
アリ貧富貴賤ノ

分カル、所ナリ之ヲ詐稱シテ人
ヲ欺ク固ヨリ罰ナカル可カラズ

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其

屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス 官署ニ對シテ事ヲ申スル宜ク誠實ナラサル可カラズ然ルニ平民

ニシテ華士族ト稱シ庶子ニシテ嫡子ト稱シ若クハ氏名年齢職業ヲ詐稱シテ官ヲ欺ク者事ニ害ナシト雖モ其情惡ム可シ故ニ罰金ニ處ス (二七八、二二四)

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽

章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以

上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス 官職位階服飾徽章ハ尊卑貴賤ノ別カル、所口ナリ勳章ハ功勞ニ因テ得タル禮遇ヲ表スル所

ノモノナリ其職ニ非スシテ官名ヲ詐稱シ其級ニ非スシテ服飾ヲナシ受ケサル勳章ヲ僭用スル者ハ即チ官權ヲ侵スモノニシテ其

罪重シ

第九節 至第二百三十六條 公選ノ投票ヲ偽造スル罪 公選ノ投票ト

ハ府縣會郡區町村會等ノ議員議長ノ投票若クハ戶長ヲ選ニ共同事項ヲ處分スル總代人ヲ任スル投票ヲ謂フ則チ之ヲ偽造シタル者ハ信用ヲ害スルノ罪トス

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ增

減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 公選ヲナス場合ニ於テ自己又ハ其欲スル

所ノ人ヲシテ選ニ當ラシメントシ投票ヲ偽造シ若クハ己ノニ増シテ人ニ減スル等ハ事詐僞ニ涉ルト雖モ全ク政務上ニ關スルヲ以テ其刑自ラ輕シ

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
選舉權ヲ有スル者ニ賄賂ヲ以テ囑托シテ己レヲ投票セシメ或ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲナス者ハ則チ私利ノ爲メニ投票ヲナシ公選ノ効ヲ害ス其情稍重シ故ニ之カ刑モ亦前條ヨリ重キヲ加フ

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者ハ他ノ不正ニ注意シテ正實ナラシム可キノ責アルモノナリ此人ニテ投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ公選ノ實効ヲ害スルノ外又其職ノ信任ニ背ク其情甚タ重シ

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
調書ヲ作り投票ノ結局ヲ報スルノ任アル者ハ其投票ノ員數ヲ増減シ其他人名ヲ取捨スル等ハ其管掌スル所ノ中ナレハ自ラ之ヲ爲スノ容易ニシテ他ヨリ之ヲ防カントスルニ甚タ難シ此間ニ於テ之ヲナス其情最モ重シ故ニ其刑前條ノモノヨリモ重シ

第五章 自第二百三十七條 健康ヲ害スル罪 此種ノ犯罪ハ一般ノ人民ニ對シテ其健康ヲ害スルモノヲ云フ蓋シ衛生ノ道ハ人命ノ係ル處國家ノ殷富モ之レヨリ生ヌル者ニテ之ヲ害スル者ハ即チ公益ヲ害シ國家ノ富源ヲ絶ツモノト謂フ可シ而シテ此章大別シテ六節トス第一阿片烟ニ關スル罪第二飲料ノ淨水ヲ汚穢

スル罪第三傳染病豫防規則ニ關スル罪第四危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪第五健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪第六私ニ醫業ヲ爲ス罪是ナリ

第一節 至第二百四十二條 阿片烟ニ關スル罪 阿片烟ハ精ヲ能

シ害スル之ヨリ甚シキモノトシ故ニ之ヲ此章ノ首ニ掲ク但シ本節示ス處ハ吸食スル處ノ阿片ニシテ藥用ニ供スル所ノ阿片ヲ謂フニアラサルナリ

第二百二十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之

ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス 本條ノ意ハ犯人ノ刑ヲ嚴ニシ禍源ヲ殄滅

セントスルニ在リ抑モ國法禁スル處ノ阿片ヲ輸入シ若クハ製造シ或ハ之ヲ販賣シタル者ハ公害ヲ顧ミスシテ止タ一己ノ私利ヲ射ルニ在レハ其情甚ダ重シ之ニシテ跡ヲ絶タサレハ其蔓延實ニ測ル可カラズ故ニ犯人ヲ有期徒刑ニ處ス

第二百二十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ

及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

阿片烟ヲ吸食スルニハ其器具ヲ用ヒサレハ能ハス故ニ之ヲ輸入シ製造シ販賣シタル者其情前條ト同シ然レモ阿片烟アリテ器具ナキ時ハ或ハ他ノ方法ヲ求メテ吸食スルコトアル可シ之ニ反シ器具アリト雖モ阿片烟ナクハ何ノ用ヲモナサ、ルナリ是ヲ以テ

其刑前條ヨリモ輕シ

第二百二十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器

具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等

ヲ加フ 稅關官吏ハ輸入ノ物品ヲ檢覈ス可キノ任アル者ナリ然ルニ却テ其情ヲ知テ輸入セシメタル時ハ其情至テ重シ

故ニ阿片烟ト器具トニ別テ前二條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十條

阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シ

テ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

阿片烟ヲ吸食スル者ハ常ニ臥床ニ於テス故ニ吸食

ニ便スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者其罪器具ヲ輸入販賣スルモノニ同シ

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

引誘スルニ利欲ノ爲ニシ又ハ戯レニ勸メタルニ拘ハラズ其人ノ吸食シタル時ハ前項ト同ク處ス

第二百四十一條

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上

三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ亦外國禁ヲ犯ス者タリ然レモ素ト之ヲ

販賣スル者アルニ因ル故ニ其罪自カラ輕カル可シ

第二百四十二條

阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又

ハ受寄シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處

ス敢テ阿片烟ヲ吸食セスト雖モ阿片烟及其器具ハ嚴禁スル所ノモノナリ而シテ其之ヲ所有スル者ハ吸食販賣ノ疑ヒナキ能ハ

スシテ禁之ヨリ弛ミ犯者之ヨリ起ラン故ニ止タ之ヲ所有シ又ハ他人ノ寄托ヲ受ケタルモ犯罪ナリトス

第二節

至第二百五條

飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

飲料ハ公衆ノ

依テ以テ生息スル所ニシテ人生必要ノモノナリ故ニ之ヲ汚穢シテ用ヒサルニ至ラシメタル者固ヨリ罰ナカル可カラズ本節之ヲ載ス

第二百四十三條

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因

テ之ヲ用フルヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一

日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下

ノ罰金ヲ附加ス 飲料ノ淨水トハ例ヘハ玉川上水神田上水其
他井水ヲ云フ之ニ不潔ノ物品ヲ投シ或ハ泥
土ヲ攪亂シテ溷濁セシメタルハ則チ人生ノ需用ヲ缺キ健康ヲ害
ス故ニ之ヲナシタル者ハ其故意ニ出ルト戯レニ出ルトニ論ナク
本條ノ刑
ニ處ス

第二百四十四條

人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ

水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

前條ハ飲料ノ水ヲ汚濁シタルニ過キス澄清ヲ待テ再ヒ
用ユルヲ得可シ本條ハ毒物等健康ヲ害ス可キモノヲ投
シテ水質ヲ變シ又ハ腐敗ニ至
ラシム其害甚シ故ニ其刑重シ

第二百四十五條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ

死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ

從テ處斷ス

前條ノ所爲ヨリ之ヲ吸飲シタル人ヲシテ之カ爲メ
ニ疾病ニ罹リ若クハ死ニ至ラシメタル時ハ現ニ人
ヲ損害シタルヲ以テ毆打創傷ノ各本條即チ第二百九十九條以下
ノ例ニ從テ處斷ス然レモ唯ダ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタルノ
罰ヨリ輕クヌ可キ理ナシ故
ニ其比例シテ重キニ從フ

第三二節

至第二百四十九條

傳染病豫防規則ニ關スル罪傳染

病ノ
危害ニ於ル劇ク且ツ恐ル可キモノナレハ之カ豫防ヲ嚴ニ
セサル可カラスシテ之カ規則アリテ違フモノハ之ヲ罰セ
サル可カラス其規則ナル者ヲ概擧スレハ檢疫停船規則虎
列刺病豫防規則傳染疫牛處分假規則傳染牛疫豫防法ノ如
キ是レ
ナリ

第二百四十六條

傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ

違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス 入港ノ船舶傳染病流行ノ地方ヨリ來ルカ又ハ傳染病者ヲ載セテ來ル者ハ檢疫吏員ヲシテ検査シ消毒方等ヲ行フカ爲メ一時乗込ノ上陸及ヒ貨物ノ陸揚ヲ禁止ス此ノ場合ニ於テ其規則ニ背キ上陸ヲナシ若クハ陸揚ヲナシタル者ハ公益ニ關スル規則ヲ破ル者ナリ然レモ船舶ノ着港スルヤ上陸ト陸揚トノ急速ヲ欲スルハ亦タ (四二六ノ二) 人情ノ免カレサル所ナリ故ニ其刑自ラ輕シ

第二百四十七條

船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

船長ハ其船中諸般ノ事ヲ監督ス可キ者ニテ規則ヲ犯ス者アリタルキハ之ヲ制止ス可キ者ナリ然ルニ其情ヲ知テ之ヲ制止セサルハ

ハ其罪重カル可キハ理ノ當サニ然ル可キ處ナリ

第二百四十八條

傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月

以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス

傳染病流行ノ地方ハ他ノ蔓延ヲ防カン爲メ其警察ヲ周密ニシテ人ノ出テ、他方ニ往クヲ禁ス若シ其禁ニ從

ハ又他ニ縱出スル者アルキハ之ヲ罰セサルヲ得ス然レモ警察上ノ怠ヨリ發生スル者ナレハ其刑他ニ比シテ少ク輕シ其他傳染病豫防規則ニ違背シタル罪ハ違背罪第四百二十六條ニ揭ケタリ

第二百四十九條

獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二

月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際亦他ノ獸類ニ傳染ヒシメサラ
ンカ爲メ嚴ニ其取締ヲナス而シテ之カ規則ニ背キ
其所有主或ハ看守者等他所ニ引出シタル者
ハ罰アリ然レモ事獸類ニ屬ス故ニ其刑輕シ

第四節 至第二百五十二條 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物

品製造ノ規則ニ關スル罪

危害品トハ破裂質ヲ有
スル物品即チ彈藥雷管

ト
ノ如キチ云フ健康ヲ害ス可キトハ惡臭及ヒ毒物ヲ云フ是
等ノ物品製造ニ付テハ各其規則アリテ之ニ順從ス可キ者
ト

第二百五十條

官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品

ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下

ノ罰金ニ處ス

火藥其他激發ス可キ物品ノ製造所ハ公衆ノ危
害ニ係ルヲ以テ官許ヲ得サル可カラズ之ヲ得

スシテ設立シタル者ハ罰アリ其他危害品ヲ運搬貯
藏販賣スル等ハ違警罪第四百二十五條ニ掲ケタリ

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者

八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

煤氣製藥製革及ヒ牛
馬骨化成等惡臭ヲ生

スル製造所ハ健康ヲ害スルモノナレハ其設立亦官許
ヲ經サル可カラズ然レモ前項ニ比スレハ其害輕シ

第二百五十一條

官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造

所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規

則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

製造所ヲ設立シタルハ官許ニ係ルト雖モ例ヘハ烟突ヲ造ルニ不
燃質物ヲ用ヒ若シハ臭氣ノ他方ニ飛散センカ爲メ其高サノ定メ
アルカ如キ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則
ニ背キタル者ハ前條ニ照シテ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 前條ノ規則ヲ遵守セサルカ爲メ人ヲ疾病死傷ニ至ラシメタル時ハ其故意ニ出タルニ非ス故ニ過失殺傷ノ各本條即チ第三百十七條以下ニ照シテ重キニ從ヒ處分ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

健康ヲ害ス可キ飲食物トハ有毒質ノ物ヲ混和シタルヲ云ヒ藥劑トハ則チ

規則ニ定メタル毒藥劑藥ヲ云フナリ

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ

罰金ニ處ス 例ヘハ餅ヲ飾ルニ綠青ヲ以テスル等即チ人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ混和スル者ナリ而シテ其事タル害ハ一般ニ及フモ素ト人ヲ害スルノ意ニ出ルニ非ス故ニ輕シ但シ因テ以テ人ヲ死傷ニ致シタルキハ過失殺傷ノ各本條ニ問フ可キナ (三一七、四二六ノ三及ヒ四)

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劑藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 毒藥劑藥規則ニ違背シ

テ醫師ノ保證ヲ所持セサル者ニ販賣シタルカ如キ職業上ノ犯罪ナレハ前條ニ比スレハ稍重シ但人ヲ殺スノ情ヲ知テ販賣シタルキハ第二百五十三條ノ從犯ト爲シテ論シ人ヲ疾苦セシムルノ情ヲ知リタルキハ則チ第三百七條ノ從犯ト爲シテ論ス可シ (三一七)

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又

ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 前二條ニ記シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハリ故ラニ犯シタル者ニ非サレハ過失殺 (三一七) 傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 至第二百五十七條 私立醫業ヲ爲ス罪 醫ハ人ノ生死ニ關ス故ニ官ノ試

驗ヲ經テ合格シタル者ニ非サレハ開業スルヲ許サス之ヲ犯セハ則チ健康ヲ害スルノ罪トス

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者

八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 開業ノ免許ヲ得スシテ疾病ノ治療ニ從事

シタル者ハ假令ヒ醫ノ本法ヲ誤ラヌ又人ヲ傷害シタルヲナシト雖モ官令ニ違フヲ以テ罪トス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ

人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス 若シ施治ノ方略ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致ス者ハ素ト人ヲ殺スノ意アルニ非ヌ故ニ

過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス (三一七以下)

第六章 自第二百五十八條 風俗ヲ害スル罪 此種ノ犯罪ハ一般ノ風儀習俗ヲ

害スル者ヲ云フ抑モ猥褻賭博及ヒ神佛ニ對シ不敬ヲナス等ノ事ハ其風俗ヲ傷害スル實ニ甚シキモノナリ而シテ此章分

ツテ三ト爲ス

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三

圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス 公然猥褻ノ所行ヲナストハ例ヘハ白日街上ニ

於テシ若クハ公衆ノ目前ニ於テ陰部ヲ見ハシ或ハ淫事ヲナス等ヲ云フ是等ノモノハ即チ一般ノ品行ヲ害シ風俗ヲ紊ルモノトス

而シテ能ク目ヲ公然ノ文字ニ注ク可シ彼目前ニ非サル所ニ於テ
犯シタル第三百四十六條第三百四十七條ノ猥褻ノ所行ハ被害者
又ハ其親屬ノ告訴ヲ埃テ論ス可キモノタリ但シ道路ニ於
テ裸体シ又ハ放尿スル如キハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ

物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四

十圓以下ノ罰金ニ處ス 淫行ヲ誘導スルノ冊子春畫若クハ
陰陽ノ形ニ摸擬シタル物品ヲ公然

鋪頭ニ展列シ若クハ販賣スルハ實ニ品行ヲ亂リ風俗ヲ害スルノ
者タリ然レモ秘密ニ陰私ニ之ヲナスハ素ヨリ法律ノ問フ所ニ非
サル
ナリ

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ

招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス 本條及ヒ次條ハ博奕
ノ罪ヲ云フ抑モ博奕

ナル者ハ其弊害タル各自ノ産業ヲ棄テ遊惰ニ流レ遂ニ家産ヲ破
ルニ至ル而シテ放火竊盜ノ徒多ク是ヨリ生ス故ニ其根柢ヲ盡サ
サレハ以テ之ヲ救フナシ則チ賭場ヲ開張シテ賃料ヲ得若
クハ催主トナリテ博徒ヲ招集シタル者其罪固ヨリ重シ

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル

者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シ

タル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲナス者及ヒ情ヲ知テ房屋ヲ貸シテ利ヲ
圖ラサル者前條ニ比シテ其情輕シ而シテ飲食ヲ賭スルモノ、如
キ産業ヲ破ルノ恐レ鮮ナシ是ヲ以テ論セ
ス但類似ノ所業ハ違警罪ノ問フ所トス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス 骰子 骨牌
及ヒ財物ノ賭場ニ在ル者即チ犯罪ノ具タリ之ヲ沒收ス然レモ徒ノ懷中ニ在ル財物ハ假令ヒ贏得シタルモノナルモ沒收ノ限ニ非 (四三、四四)

第二百六十二條

財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 富籤ハ賭博ト其趣キチ異ニスト雖モ人ノ僥倖心ヲ長シ遂ニ産業ヲ破ルニ至ル故ニ之ヲ興行スル者罰アリ但シ其票ヲ賣買シタル者ノ如キ其罪ヲ問ハサルナリ

第二百六十三條

神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公

然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

神祠佛堂ハ衆人ノ歸向スル所ニシテ尊敬スルモノタリ墓所ノ如キ亦タ敬愼ヲ加フ可キモノタリ是等ニ對シ公然不敬ノ所爲ヲナシタル者ハ即チ一般ノ風習ヲ破リ神佛ヲ侮慢スル者トス但墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シ若クハ神祠佛堂ヲ汚損シタル罪ハ第四百二十六條第十項及ヒ第十一項ニ在リ

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十

圓以下ノ罰金ニ處ス

教導職ノ說教又ハ祭典禮拜ヲ妨クル者ハ單ニ神佛ニ對シ不敬ヲナス而已ナラス信仰ノ人ニ對シ侮辱ヲナシタルモノナレハ其情前項ヨリ重シ

(四二六ノ一一及ヒ一二)

第七章

自第二百六十四條至第二百六十六條

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘

スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ

一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

人死スレハ埋葬ス可キハ當然ノコトナリ然ルヲ埋葬ノ勞費ヲ厭ヒ之ヲ道路

水中等ニ遺棄シ若クハ殘毀スルモノハ死者ニ暴虐ヲ加フルモノナルカ故ニ乃チ本刑ヲ科スルモノトス故ニ其屍ヲ喪フト否トニ

因テ罪ノ成立ニ關スルコトナシ但死屍ヲ解剖シ若クハ自己ノ所有内ニ死屍アルコトヲ知り之ヲ官署ニ申告セス他所ニ移シタル者ハ

違警罪 (四二五ノ一三、四二六ノ九、四二七ノ一〇)トス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見

ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三

圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重

禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

死屍

ト共ニ埋藏シタル器物ヲ盜マントシ又ハ死者ニ宿怨アルヲ以テ他人ノ墳墓ヲ發掘シテ棺槨ヲ見ハシ或ハ其棺槨ヲ破壞シテ死屍ヲ顯ハス者ハ亦其情狀惡ム可キモノアルヲ以テ乃チ前條ヨリ稍重キ刑ヲ科ス因テ若シ死屍ヲ毀棄スルカ如キハ頗ル殘酷ヲ極ムルモノナルカ故ニ其加等ノ狀アリトス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ

テ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ニ所謂未遂罪ヲ問フニ付テハ屢々 (三三三)

例ヲ見ルモノナルニ仍リ復述ノ勞ヲ爲サス

第八章

自第二百六十七條至第二百七十二條

商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル

罪商農工等ノ諸業ヲ行フハ蓋シ人ノ自由ニシテ以テ一家ノ經濟ヲ立ツ可ク以テ一國ノ富裕ヲ致ス可シ是レ本章ヲ設ケテ以テ之ヲ保護スル所以ナリ

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル

者ハ一等ヲ減ス 偽計トハ詐言若シハ偽策又ハ買占メ等ノ正實ナラサル所爲ヲ云ヒ威力トハ暴行脅迫等

ヲ云フ此等ノ所爲ヲ以テ日用ノ食物即チ米麥菜蔬味噌醬油茶鹽等ノ賣買ヲ妨害スルモノハ一己ノ利欲ノ爲メニ一般ニ害ヲ與フルモノナレハ則チ本條ノ刑ヲ科ス但其日用食類ヨリ以外ノモノニ付テハ其害稍輕キニ屬スルヲ以テ茲ニ一等ヲ減スルヲ定ム

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札

ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ

處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 渾テ財産又ハ物品ヲ賣

買シ或ハ工業等ノ請負等ヲ競賣入札スルニ方リ偽計又ハ威力ヲ以テ之ヲ妨害スルモノハ即チ不正ノ結果ヲ欲望スルモノニテ其

情蓋シ惡ム可キモノアリ因テ本條ノ刑ヲ科ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨

害シタル者ハ亦前條ニ同シ 偽計又ハ威力ヲ以テ農夫ノ業ヲ妨ケ工夫ノ業ヲ害スルモノ

ハ其他人ノ利ヲ損セシムルヲ前條ト相同シキヲ以テ乃チ同刑ヲ科ス

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農

工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ農業工業ノ雇人雇賃ヲ増給セシメ若クハ農工業ノ景況ヲ變セシメントスルノ目的ヲ有シ共謀又ハ偽計威力ヲ以テ雇主若クハ他ノ雇人ニ對シ妨害ヲ爲スモノヲ罰スルニ係ル蓋シ農工業ノ景況ヲ變更セシムルトハ就業ノ時ヲ短縮シ又ハ人員ヲ増加セシメントスルニ在リ即チ數人共謀シ或ハ單身ヲ以テ直ニ雇主若クハ他ノ雇人ニ對シ工事ヲ廢セシメ他ノ就業ヲ故障シ以テ偽計威力ヲ用ユルモノヲ云フ是等ノ所爲ハ其情狀極メテ輕カラズ是レ本條ノ刑ヲ科スル所以ナリ

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力

ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ前條ノ反對即雇主カ雇人ニ對スルノコトヲ示シタルモノナレハ別ニ解釋ヲ爲サス

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上

百圓以下ノ罰金ニ處ス

虛偽ノ風説ヲ流布スルトハ或ハ戰爭ノアラント偽リ又ハ天災アル可シト欺ク類ヲ云フ即チ是等ノ手段ヲ以テ穀類其他日用品ノ價ヲ昂低セシムルハ其情輕シトセス因テ本條ノ刑ヲ科ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

自第二百七十三條至第二百九十二條

凡ソ官吏ハ其任用セラレタル職務ヲ正當ニ竭ス可キノ義務アリ然ルチ行フ可キ職務ヲ行ハスシテ人民ノ權利ヲ保護セス爲ス可カラサルコトヲ爲シテ人民ノ自由ヲ妨害スル如キハ即チ其職ヲ瀆スモノナルニ仍リ以テ特ニ本章ヲ設ケ而モ分ツテ三トス第一官吏公益ヲ害スル罪第二

官吏人民ニ對スル罪第三官
吏財産ニ對スル罪是ナリ

第一節 至第二百五條 官吏公益ヲ害スル罪

本節ハ官吏
行フ可キ職

務ヲ行ハス又ハ爲ス可カテサル
ヲ爲シテ公益ヲ害スルモノヲ云フ

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布

施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者
ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス 凡ソ法律規則ヲ議定スルハ立法官
即チ元老院ノ權ニ屬シ之ヲ公布シ

及ヒ施行スルハ行政官ノ職務トス蓋シ其法律規則ノ係ル所ニ從
ヒ或ハ全國ニ及フモノト各地方ニ限ルモノト別アリ即チ卿長
官地方官郡區長戸長等其職務管掌ニ於テ公布ス可キ法律規則ヲ
公布セス又ハ大政府ヨリ公布シタル法律規則ヲ施行セス若クハ

他ノ官吏ノ之ヲ公布施行スルヲ妨害スルハ一般ノ (三三三、一三九)
公益ヲ害スルモノナルヲ以テ乃チ本條ノ刑ヲ科ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權

アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時
ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ

輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

部民ノ暴動一揆等ヲ爲スニ方リ警察ノ力ヲ以テ之カ鎮撫ヲ爲シ
克ハサルヲ察スルハ地方官ハ兵隊ヲ要求シ亦之ヲ使用スル
ヲ得可シ然ルヲ之ヲ要求セス又ハ之ヲ使用スルヲナクシテ兇徒
ヲ鎮撫セサルハ爲メニ兇徒ノ勢力ヲ熾ナラシメ其害ヤ頗ル大
ナルヲ以テ乃チ本刑 (二七七)
ヲ科スルヲ定ム

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタ

ル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス官吏商業ヲ營ムル

ハ私利ノ爲メニ其職務ヲ怠リ或ハ職權ヲ弄レテ之カ利ヲ圖ル等其弊舉テ數フ可カラズ茲ヲ以テ本條ノ刑ヲ定ム○明治八年四月太政官第六十五號達參看

第二節至第二百八十八條 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權

利ヲキ專ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シ

タル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス權利ナキコトヲ行ハシムルトハ例ヘハ勸解ヲ爲

ス裁判役出訴期限ノ經盡シタル証書ヲ有スル債主ヲシテ負債主ノ財産ヲ差押ヘシムル等ヲ云ヒ又ハ爲ス可キ權利ヲ妨害スルトハ

議員撰舉ノ權アル者ニ投票ヲ爲サシメサル等ヲ云フ則チ如此ハ孰レモ官吏ノ職分ヲ踰越シ所分ノ不當ニ涉ルモノナルニ仍リ以テ本刑（二三九）ヲ科ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人ア

ルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速

ニ保護ノ處分ヲ爲サル者ハ十五日以上三月以下

ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス人ノ身體財產ヲ妨害スルトハ假設ハ故ナク人ヲ逮捕セントシ或ハ毆打ヲ加ヘントシ或ハ家屋ヲ毀壞セントシ或ハ物件ヲ強奪セントスル等ヲ云フ蓋シ此等ノ犯罪アルノ報告ヲ受ケタル豫審判事檢事警察官吏ハ乃チ治罪法ノ定ムル所ニ從ヒ相當ノ處分ヲ爲ス可キモノナリ然ルチ之カ處分ヲ爲サルモノハ職務懈怠ノ罪アルモノナルカ故ニ則チ本刑ヲ科スルヲ定ム
(治九三、九七)

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則

ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

程式トハ令狀ノ書式等ヲ云ヒ規則云フ抑モ人ヲ逮捕若クハ監禁スルハ人身ノ自由ヲ檢束スルモノナルカ故ニ治罪法ニ於テ嚴ニ其程規ヲ定ム然ルニ檢事司法警察官巡查等漫ニ人ヲ逮捕監禁スルハ頗ル威權ヲ弄スルモノナレハ乃チ本刑ヲ科スルモノトス蓋シ監禁十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フル所以ハ其日數ノ經過スルニ從ヒ人ノ自由ヲ害スルノ多キヲ加フルニ依ル但現行犯罪ニ付令狀ヲ有セスシテ逮捕スルハ法律ノ問フ所 (三三二乃至三三五、治一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一二一、一二二)ニアラス

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ

囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

司獄官吏ハ令狀若クハ行政長官又ハ豫審判事ノ命令ニ從ヒ囚人ヲ監禁若クハ出獄セシム可キノナリ然ルニ自己ノ意見ヲ以テ人ヲ監禁シ若クハ出獄ヲ爲サシムルヲ遲引スルハ其人身ノ自由ヲ害スルニ於テハ敢テ前條ト異ナルヲナシ是レ前條ノ例ニ從フテ其刑ヲ科スル所以 (治一三七、三三三以下)

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者

囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓

以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
司獄官又ハ巡查者ハ其囚人ヲ遇スルヤ規則ニ從ヒ應分ノ檢束ヲ爲ス可クシテ決シテ苛刻ニ失ス可カラズ即チ囚人ノ飲食ヲ減シ衣服ヲ脱去セシメ又ハ毆打拷責ヲ加フルハ到底私意ヲ以テ刑余ノ苦楚ヲ嘗メシムルモノナルニ仍リ本條第一項ノ刑ヲ科ス若シ夫レ因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ通常毆打創傷ノ罪ト同視シ難シ故ニ第二項ヲ設ケ以テ其各本條ニ一等ヲ加フ (二九九以下)

第二百八十一條

水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解

クフヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各

本條ニ照シ一等ヲ加フ
水火震災ノ變アル時ハ司獄官タルモノハ苟モ之カ監禁ヲ解キ囚人ノ

性命ヲ安全ナラシメサル可カラス故ニ苟モ之ヲ怠リ因テ死傷セシメタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ一等ヲ加フルモノトス但平人擅ニ監禁シタルニ付テハ (二九九以下三五) 本條ノ問フ所ニアラス

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ

對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐

ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本

條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
刑事被告人ヲ

ニ白狀ヲ爲サシムルハ法ノ嫌フ所ニアラスト雖モ苟モ恐嚇詐言ヲ用ユルカ如キハ既ニ治罪法ノ禁スル所ナリ然ルヲ裁判官檢事警察官吏等其白狀ヲ強ヒ或ハ拷訊ヲ行ヒ算盤ニ坐セシメ石ヲ抱カシメ終日空シシ法廷ニ立タシメ食餌ヲ與ヘサル等ノ所爲ニ涉

ルハ漫ニ威權ヲ弄シテ人ヲ苦シムルモノニテ其情狀太々惡ム可
シ故ニ本刑ヲ科スルコトヲ定ム若シ夫レ暴行陵虐ノ極被告人ヲ死
傷ニ致サシムルカ如キハ愈其放肆ヲ加フルモノ (治一五〇)
ナレハ毆打創傷ノ各本條ニ照ラシ各一等ヲ加フ

第二百八十三條

裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴
ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以
上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

公判々事又ハ豫審判事檢事及
違警罪裁判所ノ警部正當ノ
事故ナクシテ公訴又ハ告訴ヲ受理セス或ハ之ヲ受理スルモ之カ
審問ヲ遷延スルハ乃チ証據湮滅シ犯者遁逃シ又ハ拘留ノ被告
人ヲシテ永ク自由ヲ檢束セシムル等太々社會ニ害アルモノトス
而シテ民事ノ訴ニ付テハ爲メニ其訴權ヲ伸暢スルコトヲ妨グルモ

ノニテ其職務ヲ怠ルノ結果亦相等シ (治九三)
キヲ以テ本條ノ刑ヲ科スルモノトス

第二百八十四條

官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ
又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁
錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

裁判官
檢事警

察官ヲ除ク外渾テノ官吏其職務ニ管シ人ノ囑託ヲ受ケ爲メニ
金額若クハ物件ノ賄賂ヲ收受シ又ハ其收受ヲ聽許シタル時ハ其
囑託ノ正否ヲ問ハス只之ヲ收受シ又ハ收受ヲ聽許スル而已ヲ以
テ本條第一項ノ刑ヲ科スルモノトス若シ夫レ因テ不正ノ處分ヲ
爲シタルハ第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ但其贈ルノ人及ヒ與フコ
トヲ約シテ囑託ヲ爲シタルモノハ罪ヲ論セス第二百八十五條第二
百八十六條ニ
付テモ亦同シ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ 凡ソ官
ヲ行フノ弊苞苴ヨリ甚シキハナシ故ニ渾テ官吏ノ苞苴ヲ得又ハ之ヲ收ムルヲ聽許シタルモノハ前條以下各其刑ヲ定ム夫レ均シク苞苴ヲ得若シハ收ムルヲ聽許スルモノナリト雖モ其管掌事務ニ依リ或ハ害ノ多少ナキ能ハス茲ヲ以テ前條ハ一般ノ官吏ニ適用シ本條及ヒ次條ニハ特ニ或ル官吏ニ係ルモノヲ定メ其内又民事事ニ付テ各其刑ヲ分チ本條ハ乃チ民事裁判官ノ賄賂ニ付テノ事ヲ定ム蓋シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル而已ニテ罪ト爲ス所以ハ其賄賂ノ爲メ恒ニ公平ヲ保ツ能ハサル可ク亦假令

正當ノ判決ヲナスモ公衆舉テ之ヲ信セサルニ至ルヲ以テナリ況ンヤ不正ノ裁判ヲ爲スヲヤ是レ第一項第二項ト分ツテ刑ヲ加重スル所
 以ナリ

第二百八十六條 裁判官檢察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百一十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

本條第一項ハ前條

第一項ト其理由ナ同フス但之カ刑ノ重キヲ致ス所以ハ刑事裁判ハ其民事裁判ニ比スレハ多ク直ニ身体ニ關スルモノナルニ由ル其第二項第三項ヲ以テ被告人ヲ曲庇シタルト陷害シタルトヲ分ツハ其法ヲ枉クルニ於テハ相等シト雖モ有罪ヲ逸セシムルト無率ヲ罪スルトハ其結果情狀共ニ相同シカラサレハナリ故ニ其害ノ大小ヲ衡シテ之カ輕重ヲ分ツ但若シ被告ヲ陷害セシムル爲メ枉斷シタル所ノ刑本條第三項ヨリ重キハ其枉斷シタル刑ニ反坐スルモノトス

第二百八十七條

裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽

許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ

曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

裁判官檢察官吏等ハ恒ニ

公平ヲ主持シ法ニ因テ罪ヲ論シ法ニ從フテ刑ヲ求ムルモノトス然ルヲ私情ニ偏シ私怨ヲ挾ミ被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルハ假令賄賂ヲ受クルヲナシト雖モ其職ヲ瀆スヤ大ニシテ人ヲ害スルノ甚シキニ至ツテハ前條ト敢テ逕庭スル所ナシ是レ曲庇ト陷害ヲ分チ前條ノ刑ヲ以テ本條ヲ論スル所以ナリ

第二百八十八條

前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受

シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵

本條ハ第二百八十四條乃至第二百八十六條ニ記載シタル賄賂スハ其金額ト物件ヲ問ハス現在スレハ直ニ沒收シ費用スレハ乃チ其相當ノ金額ヲ追徵シ之ヲ沒收スルヲ定ム但本條特ニ沒收ノ例ヲ定ムルハ蓋シ取與共ニ不正ニ出ルモノナルヲ以テナリ

第三節

至第二百九十一條

官吏財産ニ對スル罪

官吏當行ノ職務ニ關シ

財産ヲ取扱フモノハ最モ正實ノ所爲ヲ以テセサル可カラス然ルヲ其職任ニ背キ財産ヲ私スルニ於テハ其職ヲ瀆ス

ヤ極メテ甚シキヲ以テ特
ニ本節ヲ設クルモノトス

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ
竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時

ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス官吏自ラ監臨主守スル所ノ金穀若クハ物件ヲ竊取スルハ其情狀竊盜ノ比ニアラス故ニ本條第一項ノ刑ヲ科ス但官吏ト雖モ監臨主守ニ在ラサルモノ若クハ監守ノ職務中ニ在ラサルキニ於テ竊取スルハ本條ノ例ニ照ラス可カラズ蓋シ其第二項ヲ設クル所以ハ是等ノ者其罪証ヲ隱滅スル爲メ官ノ文書簿冊ヲ變換又ハ棄毀シタルキハ第二百五條ノ罪ト併發スルモノトシ其重刑ニ處ス可キヲ定ムルモノトス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏

正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下
ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス租稅トハ國稅地方稅等ヲ云ヒ諸般ノ入額トハ沒收罰金料料又ハ輸出入稅銀行稅度量衡稅等ヲ云フ乃チ是等ノ金額ヲ徵收スルノ官吏當然受納ス可キ金額ノ外多余ノ高ヲ徵收シタルキハ假令己レニ入ル、ニアラスト雖モ以テ本刑ヲ科シ苟モ計勘ヲ正フセシムルモノトス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ
刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス本條

ハ曩ニ屢々其解説ノ例ヲ見
ルモノナレハ別ニ贅述セズ (三八)

第三編

二百三十三條

章 身體財產ニ對スル重罪輕罪 此編ハ直接ニ

社會一般ヲ害スルニ非ス乃チ一人或ハ數人ノ身體生命及ヒ財產ニ對シテ犯シタル一切ノ重罪輕罪ヲ示ス通常人ノ罪ヲ犯ス多クハ私怨ヲ報セントシ或ハ私慾ヲ逞フセント欲スルニ在リ故ニ此編ハ刑法中實際最モ多ク適用ス可キナル條件ト云フ可シ

第一章

自第二百九十二條至第三百六十五條

身體ニ對スル罪

身體ニ對スル罪ニ數種ノ別ヲ爲

ス即チ生命ニ關シ或ハ身體ノ自由ニ關シ或ハ貞操ニ關シ或ハ名譽ニ關スル等是ナリ蓋シ此章分テ十三節ト爲ス第一謀殺故殺ノ罪第二毆打創傷ノ罪第三殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不
論罪第四過失殺傷ノ罪第五自殺ニ關スル罪第六擲人ヲ逮捕監禁スル罪第七脅迫ノ罪第八墮胎ノ罪第九幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪第十幼者ヲ略取誘拐スル罪第十一猥褻姦淫

重婚ノ罪第十二誣告及ヒ誹毀ノ罪第十三祖父母父母ニ對スル罪是ナリ

第一節 謀殺故殺ノ罪

至第九十八條

凡ソ人ノ生命ヲ殄ツ其罪焉ヨリ重キハ無

シ故ニ先ツ之ヲ第一ニ揭ク其謀殺ト故殺トノ區別ハ各本條ノ下ニ於テ之ヲ明ス

第二百九十二條

豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ

罪ト爲シ死刑ニ處ス

本條謀殺ノ罪ハ左ノ要項ヲ具備シテ成立ス第一其性質ノ如何ニ論ナク直

接ニ人ヲ殺スノ所爲ヲ行フコト第二人ヲ殺スノ目的ヲ以テ豫メ之ヲ謀リ種々ノ用意ヲ爲スコト第三其所爲ノ惡心ニ出ルコト是ナリ故ニ人ヲ殺サン爲メ豫メ謀テ之ヲ毆打シタルニ意外ノ障礙ニ因リ之ヲ遂クルコトヲ得スシテ止マ創傷シタルモ毆打創傷ヲ以テ論セズ即チ謀殺ノ未遂罪トシテ處斷ス凡ソ人ヲ殺スハ仇恨妬忌貪慾等ニ原因ス然リ而シテ通常人ノ情トシテ時日ヲ經過スレハ漸次

ニ憤懣モ解ケ且ハ退テ思考スレハ其所爲ノ兇惡ナルト其罪科ノ重キトハ假令頑愚ノ人ト雖モ之ヲ了スルモノナリ然ルチ益殺意ヲ固フシ豫メ謀テ人ヲ殺スハ其情狀極メテ重キモノトス故ニ謀殺ヲ遂ケタル者ハ皆死刑ニ處ス (三〇二、三〇九、三一七、三二〇、以下)

第二百九十三條

毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ

謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

本條モ亦謀殺ヲ以テ論スルノ罪トス毒殺ハ必ス死ニ至ル可

キ毒藥ヲ施用シ人ヲ殺シタルモノヲ云フ故ニ毒殺ハ概ス豫謀ニ出テサルモノ無シ而シテ兇器ヲ以テ人ヲ殺スカ如キハ或ハ智力ニヨリ之ヲ防キ或ハ他人之ヲ障礙スルノ道アリト雖モ毒殺ハ秘密ノ間ニ行フヲ以テ之ヲ防クコト甚タ難シ又其毒殺ヲ檢出スルモ亦一ノ難事ト云フ可シ故ニ毒殺ヲ遂ケタルモノハ謀殺ト同ク死刑ニ處ス未ダ遂ケサル時ハ則チ謀殺ノ未遂罪ト同ク處斷ス (三〇七、二二二、二二三)

第二百九十四條

故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺

ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス 故殺ハ豫メ謀テ殺スニ非サレ
ラニ殺シタルモノハ毆殺ヨリ重シ其故殺トハ一時ノ爭鬪等ニ因
リ憤怒ニ堪ヘズ忽然殺意ヲ生シ直チニ人ヲ殺スチ云フ故ニ故殺
ハ謀殺トハ其情自ラ差異アリ但故殺ト雖モ其所爲ノ甚タ慘酷ニ
過クルモノハ其刑一層ノ重キニ處スルハ後條ニ記スルカ如シ
(三〇二、三〇九、三一四、以下三一七、三二〇、以下三六二、三八〇)

第二百九十五條

支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人
ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス 本條ハ故殺ノ所爲ニ於テ
甚タ慘酷ナルモノチ云フ

其支解トハ人ノ四肢五體ヲ分解スルヲ折割トハ人ノ腹部ヲ割剖
スルヲ其慘刻ノ所爲トハ毒蛇ニ咬マシメ或ハ湯火ヲ以テ糜爛ス
ル等ノヲチ云フ是等ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺スルヤ其殘忍暴惡實
ニ惡ム可キモノナレハ一層其刑罰ヲ嚴ニセサルチ得ズ故ニ之ヲ
死刑ニ處ス

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又

ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル

者ハ死刑ニ處ス

本條ハ罪ヲ犯ス爲メ或ハ既ニ犯シタル罪ヲ
追レン爲メ人ヲ故殺シタル罪チ云フ即チ重
輕罪ヲ犯スヨ方リ防護セラレンコトチ虞リ其人ヲ殺シ或ハ重輕罪
ヲ犯シ其罪ヲ追レンカ爲メ追捕ノ人ヲ殺スノ類ニシテ全ク他ノ
犯罪アル爲メ重テ此罪ヲ犯スモノナレハ尋常一樣ノ刑ニ處スル
チ得ズ故ニ故殺ト雖モ自己ノ爲ニスルト共犯ノ爲メニスルトチ
問ハズ皆死
刑ニ處ス

第二百九十七條

人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ
危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫

メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

本條ハ人ヲ殺スノ意アリト
雖モ直接ニ之ヲ殺ス能ハサ
ルカ或ハ之ヲ殺スニ便ナラサルカ故ニ詐僞ヲ以テ誘導シ危害ニ
陷レ死ニ致スノ罪チ云フ其危害ニ陷ルノ手段頗ル多シト雖モ例

ハハ罪ヲ設ケテ之レニ陷レ或ハ詐テ河水ニ墮落セシメ死ニ致ス
ノ類ナリ而シテ其行フ所ノ所爲ハ同シト雖モ殺意ノ豫謀ニ出ル
ト臨時ニ出ルトノ區別 (三〇八)
ヨ從テ其刑ヲ異ニス

第二百九十八條

謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

凡ソ謀故殺ハ固ト殺意ヲ生シテ後其所爲ヲ行フモ
ノナレハ假令甲ヲ殺サントシテ誤テ乙ヲ殺スル過失ヲ以テ論スルコトヲ得ス同ク謀故殺ヲ以テ論シ各本刑ニ處ス (三〇四)

第二節 毆打創傷ノ罪

毆打トハ即人ノ身体ニ對シ暴行ヲ加フルコトニ傷トハ其暴行ニ因テ身体ヲ毀損スルノ義ナリ創傷ノ罪ハ左ノ要項ヲ具備シテ成立スルモノトス第一人ヲ毆打シ創傷ヲ加フルコト第二人ヲ害スルノ意ニ出ルコト是ナリ若シ毆打シタル而已ニテ未タ身体ノ一部分ヲ創傷セザレハ其所

爲ハ止タ違警罪第四百二十五條ニ據リ處分スルニ過キヌ又人ヲ創傷スルモ故意ニ出テサルハ即チ過失傷ナリトス故ニ其故意アルト創傷ノ結果トニ因リ毆打創傷ノ罪ヲ定ムルモノトス蓋シ毆打創傷モ豫メ謀ルモノト一時ノ憤怒ニ出ルモノト其刑ヲ異ニスル
ト猶ホ謀殺故殺ノ別アルカ如シ

第二百九十九條

人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

人ヲ毆打シテ死ニ至ラシムルハ其罪甚ク重シト雖モ初メヨリ人ヲ殺スノ意アルニ非ス又豫メ謀ルニ非ス一時ノ憤怒ニ因テ毆打シ其創傷ノ爲メニ遂ニ死ニ至ラシムルモノナレハ其情謀故殺ト負カニ輕キ所アリ故ニ重懲役ニ處ス而シテ毆打創傷ノ罪ハ其創傷ノ結果ヲ待テ罪ノ輕重ヲ定ムルモノナレハ毆打創傷ノ時ヨリ數日間ヲ經ルト雖モ毆打創傷ニ原因シテ死ス (四二五ノ九、三六三)
ルハ即チ本條ノ刑ヲ科ス

第三百條

人ヲ毆打創殺シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ

又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス 毆打創傷中本項ハ篤疾ノ罪ヲ示ス即チ其兩目ヲ瞎シテ視官ノ用ヲ失ハシメ或ハ兩耳ヲ聾斷シテ聽官ノ用ヲ缺カシメ或ハ兩手兩足ヲ折リテ運用ノ便ヲ喪ハシメ或ハ舌ヲ斷テ言語ノ自由ヲ殺キ或ハ陰陽ヲ毀敗シ若クハ腦ヲ壞リ其他ノ事ニテ知覺精神ヲ喪失セシムル等孰レモ其人ヲシテ畢生ノ間人間ノ幸福ヲ失ハシムルモノニテ其害殊ニ重シ (三六三)

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス 此項ハ毆打創傷ニ因テ人ヲ癱疾ニ致シタル罪ヲ示ス即チ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾スル等其創傷前項ノ半ニ止マリ或ハ指齒ヲ折リ耳鼻ヲ抉毀スル等都テ其人ヲシテ將來不具タラシムル者ハ之ヲ輕罪トシ本條ノ刑ニ處ス但一

目一耳ノ用ヲ同時ニ失ハシメ或ハ一目ノ人 (三六三) ヲ毆テ盲目ニ致ス等モ皆癱疾ヲ以テ論ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス 本條ハ毆打創傷シテ癱篤疾

ニハ至ラシメスト雖モ爲メニ疾病ニ罹ラシメ若干時間職業ヲ營ム能ハサラシムルノ罪ヲ云フ凡ソ人ノ疾病ハ二十日ニ過クレハ容易ニ治シ難ク必ス二三月ニモ達ス可シト故ニ二十日内外ヲ以テ之カ區別ヲ爲ス蓋シ此原トハ醫家ノ實驗ニ據ルト云フ (三六三)

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 疾病休業ノ時間二十日以下ニ止ル者ハ其創傷至テ輕ケレハ其刑

期モ前項ニ比スレ (三六三)
ハ寛カニ短カシ

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者
ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス 身體ニ微少ノ
創傷ヲ成シタ

ル而已ニシテ少モ疾病休業ニ至ラシメサル時ハ
其罪極メテ輕シ故ニ輕罪中最輕ノ短期ニ處ス (三六三)

第二百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又

ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ

各一等ヲ加フ 前二條ノ毆打創傷ハ一時ノ憤怒ヨリ臨時ニ犯
シタル者ノ處分ヲ示ス若シ其毆打臨時ニ出ル

ニ非スシテ妬忌怨恨其他ノ情ヨリ豫メ毆打センコトヲ謀リ之ヲ犯
シタル者ハ其情更ニ惡ム可シ故ニ各本刑ニ照シ一等ノ重キヲ加
フ (二九二、三六三)

第二百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己

ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル
者ハ亦前條ノ例ニ同シ 本條ハ第二百九十六條ト其形跡ヲ
同フス乃チ豫謀毆傷ト同刑ニ處ス
(二九六、三六三)

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ

仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス 本條ハ第二百九十八條ト其犯
跡ヲ同フス乃チ毆打創傷ノ本

刑ニ (二九八)
處ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ
現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ
科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサ
ル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減

等ノ限ニ在ラス

毆打創傷ノ共犯ハ總則數人共犯ノ例ト其處分ヲ異ニス即チ總則ノ例ハ皆正犯ト爲シ各

自ニ同刑ヲ科スト雖モ毆打創傷ノ共犯ハ各自ニ爲シタル創傷ノ結果ヲ待テ各本條ノ刑ニ照シ處分スルモノトス例ヘハ二人共ニ人ヲ創傷シ甲ハ兩目ヲ瞎シ乙ハ一耳ヲ聾シタルハ甲ハ第三百條ノ首項ニ照シ篤疾ノ刑ニ處シ乙ハ同條後項ニ照シ癡疾ノ刑ニ處ス共犯亂毆シテ輕重ヲ知ル能ハサルハ二人共ニ所犯ノ重刑ヲ科スルハ酷ニ過ク故ニ被害者ノ負フタル最モ重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シ二人共ニ同刑ニ處ス但教唆者 (二〇七、一〇八)ハ減等スルヲ許サス其重傷ノ本刑ニ處ス

第三百六條

二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ

人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ

現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

二人以上共ニ人ヲ毆打スルハ其一人ハ現ニ手ヲ下シ自ラ傷セスト雖モ被害者ノ兩手ヲ押ヘ或ハ壓伏シ他ノ一人ヲシテ擅ニ創傷セシムルカ如キハ其幫助ノ

爲メニ創傷ヲ容易ニシタルモノナレハ其幫助者ハ (二〇九) 現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條

健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾

苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照

シテ處斷ス 本條ハ固トヨリ人ヲ死ニ致スノ意ナク亦生命ニ關スル毒藥ニ非スシテ止ダ人ヲ惱マサンカ爲メ健康

ヲ害ス可キ毒質ノ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシムルヲ云フ此場合ニ在テハ豫メ謀テ毆打創傷シタル者ノ刑ニ照シテ處分ス (二九三、三〇二)

第三百八條

人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シ

テ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創

傷ヲ以テ論ス 本條ハ第二百九十七條ト其犯跡ヲ (二九七) 同フス故ニ毆打創傷ト同ク論ス

第三節

至第三百 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

總則ニ記スル所ノ宥恕不論罪ハ一般ニ通用スルモノナレ
此節ハ純ラ殺傷ニ關スル罪ニ用フル爲メ特ニ設ケタル
宥恕不論罪トス而シテ殺傷ノ宥恕ハ二等又ハ三等ヲ減シ
不論罪ハ全ク其罪ヲ問ハサルナリ蓋シ罪ヲ宥恕ス可キ要
項ニ二箇又罪ヲ論セサルノ要項ニ一アリ乃チ罪ヲ宥恕ス
可キ要項トハ第一暴行ヲ受クルニ因リ直チニ發怒シタル
一第二防衛ノ權ヲ用フルヲ誤マリタル一是ナリ又罪ヲ論
セサルノ要項トハ乃チ防衛ノ權ヲ正當ニ行ヒタル一是ナ
リ

第二百九條

自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チ

ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス
但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限

ニ在ラス

本條ハ挑發ニヨリ直チニ發怒シタルモノヲ云フ乃チ
犯人自己ノ身體ニ暴行ヲ加フルニ當リ其怒ヲ抑ヘン

トスルモ勢ヒ自ラ制スル能ハス亦毫モ思慮スル暇ナキ場合ニ於
テ之ヲ犯スカ如キハ其罪ヲ宥恕スルモノトス若シ其暴行ヲ受ク
ルト雖モ自己ノ不正ヨリ自ラ暴行ヲ招キタ
ル者ハ決シテ宥恕減輕スルコトヲ得サルナリ (三六五)

第二百十條

毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後

ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得人

互ニ毆打シ双方共ニ創傷シタルハ互ニ先キニ暴行ヲ受ケタリト
謂ヒ亦其實況ヲ證スル能ハサルノ場合ニ於テハ裁判官ノ意見ヲ
以テ双方共ニ其罪ヲ宥恕減輕スルコトヲ得可シ然レモ創傷
シタルノ前後明瞭ナルハ前條ノ例ニ從フハ勿論トス (三六五)

第三百十一條

本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ

直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕
ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

本條モ第三百九條ノ如ク其忿怒切迫シテ勢ヒ自ラ制スル能ハス直チニ其姦夫姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕減輕ス然レモ先キニ其姦通ヲ縱容シタルコトアル (三五三ノ二、三六五) 非ハ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス

第二百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入

リ若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス 第三百九條以下本條ニ至ルマテハ乃チ正當ニ防衛ノ權ヲ用ヒタルニアラスト雖モ多少其情ノ恕ス可キヲ原因ト爲シ殺傷ノ罪ヲ宥恕スルモノヲ定ム蓋シ防衛ノ權ハ所謂天賦ノ權ニシテ人ノ身體財產ヲ保護スルニハ實ニ欠ク可カラサルモノナリ然リ而シテ其之ヲ行フニ方リ正當ニ行フト否トノ別アリ其正當ニ行フニハ左ノ要項ヲ具セサルヲ得ス第一暴行襲撃ノ不正ナルコト第二暴行襲撃ノ腕力ニ出ルコト第三暴行襲撃ノ現ニ切迫スルコト第四暴行襲撃ヲ防クニ止ムヲ得サルニ出ルコト是ナリ又防衛ノ權ヲ用ユルヲ誤ルトハ左ノ

場合ニ於テ防衛ノ權ヲ行ヒタルコト云フ第一暴行襲撃ノ正當ナル片例ヘハ現行ノ犯罪ニ仍リ又ハ令狀ニ依リ人ヲ逮捕スルカ如キ之ヲ防止スルモ防衛ノ權ヲ行ヒタル者ト云ヒ難シ第二暴行ノ腕力ニ出テサル片乃チ腕力ニ出テサル片ハ之ヲ防止スルモ腕力ヲ要セサルナリ第三現ニ切迫セサル片若シ現ニ切迫セサレハ其事已ニ終リタル後チ其備ヲ爲スルニ又ハ訴訟ヲ爲スルニ其猶豫アリ第四防止スルニ止ムヲ得サルニ非サル片乃チ之ヲ避クルニ他ノ道アレハナリ今此條ノ場合ニ在テハ未ダ正當ニ防衛ノ權ヲ行ヒタルニ非ス即チ白晝ナルカ故ニ他ニ避クルノ道無キニ非ス故ニ其罪ヲ全ク問ハサルヲ得ス止マ其罪ヲ宥恕シ本刑ニ一等又ハ二等減スル (二七一、三六五) 而已

第二百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ

各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス 本條ハ宥恕減輕ノ減等法ヲ示スナリ

第二百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得

サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニ
 シ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正
 ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラ
 ス前數條ハ宥恕減輕ヲ示シ本條及ヒ次條ハ不論罪ヲ掲ク乃チ第
 三百十二條ノ下ニ於テ述フル所ノ四箇ノ要項ヲ具シタル防衛
 ノ權ヲ行ヒ暴行人ヲ殺傷シタルハ自己ノ爲メニスルト他人ノ
 爲メニスルトチ問ハス全ク其罪ヲ論セサルナリ但自己ニ不正ノ
 所爲アルニ因リ暴行ヲ招キタル者ハ第三百九十條ノ下
 ニ於テ記スルカ如ク全ク罪ヲ論セサルノ限リニアラス
 (三六五)

第三百十五條

左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出
 テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス 本條モ亦正當ニ
 防衛ノ權ヲ行ヒ
 タルモノナレハ全ク其罪ヲ論セス蓋シ第一項第二項ハ財産ヲ
 防衛シ第三項ハ身体生命ト財産トチ防衛スルノ場合ヲ示ス

(三六五)

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ
 出タル時 財産ノ貴重ナル自己ノ生命ニ次クモノナレハ之レ
 ニ對シ放火其他ノ暴行ヲ爲ス者防止スルハ其晝夜
 ト防止ノ手段ヲ問ハス乃チ正
 當ニ防衛權ヲ行ヒタル者トス

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時 此
 モ亦財産ニ係ル故ニ晝夜ヲ分タス強竊盜ヲ問ハス
 家ノ内外ヲ論セス正當ニ防衛權ヲ行ヒタル者トス

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門
 戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時
 此項ハ第三百十二條ト同一ノ場合ニシテ唯晝間ト夜間トノ區
 別アル而已乃チ晝間ニ在テハ之ヲ避クルノ道アリ故ニ唯其罪

ヲ宥恕減輕スルニ止マルト雖モ夜間ニ在テハ之ヲ避ク(一七二)ルヤ或ハ難シ故ニ亦正當ニ防衛權ヲ行ヒタル者ト爲ス

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己

ムヲ得サルニ非シテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ

第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

ハ防衛權ヲ濫用スルノ甚シキモノヲ云フ乃チ其暴行ヲ受クルニ當リ之ヲ殺傷セシテ他ノ方法ヲ以テ防止ス可キ道アルカ亦之ヲ避ク可キ餘地アリテ止ムヲ得サルニ非サルニ却テ暴行殺傷シ又ハ危害己ニ去テ後其暴行人ヲ殺傷ス即防衛權ヲ正當ニ行ヒタルモノト謂ヒ難シ是レ法律ニ於テ其罪ヲ問ハサルヲ得サル所以ナリ然レモ其情狀ニ因リ裁判官ノ意見ヲ以テ止タ其罪ヲ宥恕減

輕スルヲ得セシム

第四節 過失殺傷ノ罪

至第三百十九條

總則第七十七條ニ揭クル所ノ如ク罪ヲ犯

スノ意ナク全ク注意ノ及ハサルモノハ其罪ヲ論セサレモ此節ニ云フ所ノ過失ハ不注意ト懈怠トニ因テ生スルモノナレハ其罪ヤ罰ヒサルヲ得然レモ固ト過失ニ因テ生スル所ノ罪ナレハ之ヲ實決ノ刑ヲ用フルニ忍ヒス因テ罰金ニ處ス

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過

失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

疎虞トハ不注意ヲ云ヒ懈怠トハ怠慢ヲ云フ乃チ危險ノ場合アルモ之ヲ意トセス又ハ爲ス可キノ注意ヲ爲サ、ルモノ是ナリ規則トハ例ヘハ道路ニ於テ車道ヲ定メタルモ車夫之レニ背キテ人道ヲ疾驅シ慣習トハ

其地方ニ於テ自ラ仕來リタル慣習アツテ之レニ因テハ危險ヲ避
ク可キモノナルモ之ヲ守ラサルヲ云フ以上ノ疎虞懈怠又ハ規則
慣習ヲ守ラサルニ因リ人ヲ死ニ致スハ畢竟不注意ヨリ生スル者
トス故ニ本條ノ刑ヲ科ス但被害者ニ對シ埋葬醫藥ノ賠償ハ治罪
法ニ定ムル所ノ手續ニ從 (二九二、治四)
テ別ニ之ヲ求ムルヲ得

第三百十八條

過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シ

タル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條及ヒ次
條ニ疎虞懈

怠ノ言ヲ記セサルハ之ヲ省略シタル而已其意亦前條ト同シ其過
失ニ至テハ稍ヤ前條ノ如ク甚シカラス故ニ其罰金モ輕キニ處ス
(三〇〇)

第三百十九條

過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至

ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ過失ハ前二條ニ比スレハ輕カニ輕シ故ニ其罰金モ亦準シ
テ輕シ蓋シ本條ノ疾病休業ハ第三百一條ノ如ク二十日内外ノ區
別ヲ爲サス疾病休業ニ至レハ日數ノ多少ヲ問ハス皆本刑ヲ科ス
唯裁判官ノ意見ヲ以テ本條罰金ノ範圍内ニ於テ其多寡ヲ斟酌ス
ル而已但其創傷極メテ輕ク休業 (三〇一)
ニ至ラサルモノハ其罪ヲ問ハス

第五節

至第三百
二十一條

自殺ニ關スル罪

自殺ニ關ストハ自
殺ヲ爲ス者ノ手ヲ

助ケ或ハ補助ヲ爲シ又ハ人ヲ煽動シテ自殺ヲ爲サシムル
者ニシテ所謂自殺ニ關スル助手者及ヒ教唆者ノ罪ヲ云フ

第三百二十條

人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ

受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上

三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ

減ス 自殺ヲ爲スノ原因ハ種々アリ或ハ汚辱ノ點ヨリシテ親屬
 朋友ノ譴責即教唆ニ因リ或ハ艱難窮苦ノ堪ヘ難キヨリ心
 神錯亂スル等ニ起ルモノトス故ニ囑托ヲ受ケテ自殺者ノ爲メニ
 手ヲ下シテ死ニ至ラシメ或ハ教唆シテ自殺セシムルハ貴重ノ性
 命ニ關スル重事ナレハ之ヲ罰セサルヲ得レモ多クハ義理上ヨリ
 起ルモノニシテ惡意アルニ非サレハ大ニ恕ス可キ所アリ仍テ之
 ヲ輕禁錮ニ處シ若干ノ罰金ヲ附加ス又其他ノ補助ヲ爲シタルト
 ハ自殺ノ場ニ臨ミ自殺ヲ犯スヲ知テ自殺ヲ爲スニ足ル可キ刀
 劍等ノ器具ヲ給與シ或ハ自殺ノ方法ヲ教示シタル者ヲ云フ是等
 ハ教唆者助手者ニ比スレハ其情稍ヤ輕シ故ニ其本刑ニ一等ヲ減
 ス且男女情死ヲ謀リ其一人ノ死ヲ視テ後ノ一人約ヲ變シ或ハ死
 ニ着手シテ遂クルヲ能ハサル者モ本條ノ教唆者ヲ以テ論セサル
 ヲ得ズ但本條ハ自殺者死ヲ遂ケタルトニ於テ (三六二)
 テ刑ヲ科ス未ダ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

**第二百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺
 セシメタル者ハ重懲役ニ處ス** 前條ハ自殺者ノ爲メニ謀
 ルモノヲ云ヒ本條ハ原ト

己レノ利慾ヲ圖ル爲メ人ヲ自殺セシムル者ヲ云フ例ハ兄弟ノ家
 督及ヒ遺財ヲ繼承センコトヲ欲シ逼迫ノ事アルニ乘シ兄ヲ教唆シ
 テ自殺セシメ或ハ婦ノ淫行ナル者其慾ヲ逞フセンカ爲メ夫ヲ懲
 瀆シテ自殺セシムルノ類ニシテ其情大ニ惡ム可キモノアリ仍テ
 之ヲ重懲役ニ處ス若シ子孫其祖父父母ヲ教唆シ自殺セシメタ
 ルハ第三百六十二條ノ後項ニ照シ二等ヲ加ヘ無期徒刑ニ處ス
 且本條ハ重罪ナレハ未ダ遂ケサルモノト雖 (一一三)
 モ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷スルモノトス

第六節 至第三百 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 官吏ノ
 擅ニ人

ヲ逮捕監禁スル罪ハ第二百七十條以下ニ記載ス此節ハ通
 常ノ人ニシテ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ示ス逮捕トハ人
 ヲ拘留シ又ハ捕縛スルヲ監禁
 トハ室内ニ押込ムルノ義ナリ

**第二百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シ
 タル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓**

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

凡ソ現行犯ノ場合ニ在テ犯人ヲ逮捕スルハ國民ノ社會ニ盡ス可キ德義上ノ義務トシテ法律ニ於テ之ヲ許スト雖モ非現行犯人ヲ逮捕スルハ司法警察官ト雖モ規則ニ據ラサレハ之ヲ逮捕ヲ爲スヲ得ス監禁ハ固ヨリ適當ノ官吏ニ非サレハ行フヲ得ス況テ常人ニ於テチヤ故ニ常人私ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁スルハ本條ノ刑ニ處ス仍ホ監禁ノ日數十日ヲ過リ毎ニ一等ヲ加フ蓋シ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サルハ第七十條後項ニ記スルカ如シ
(二七八、三六三、治一〇五、治一一八、乃至一四三)

第三百二十三條

擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

擅ニ人ヲ監禁制縛シタル而已ナラス之レニ加フルニ毆打拷問シ

若クハ飲食ヲ屏去スルハ身體生命ヲ危フスル苛酷 (二八〇)ノ所爲ニシテ其情ノ惡ム可キ前條ノ比ニアラス

第三百二十四條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストハ例ヘテ處斷ス

ハ人ヲ疾病ニ罹ラシムルヲ二十日以下ナレハ前條ノ刑ニ處シ二十日以上ナレハ第三百一條ニ照シテ處斷シ癡疾ニ致セハ第三百條ニ照シテ處斷ス篤疾ニ致セハ輕懲役ニ處シ死ニ致セハ第二百九十九條ニ照シ重懲役ニ處ス但人ヲ殺スノ意ヲ以テ前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタルハ故殺ノ罪ヲ以テ論ス可シ

第三百二十五條

擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條

ノ例ニ同シ 擅ニ自ラ人ヲ監禁シタル者水火震災ノ際ニ方リ速ニ解放ス可キニ之ヲ怠リ死ニ致セハ故意ニ非スト雖モ其情狀苛酷ヲ極メ之ヲ死ニ致シタルト異ナルヲ無キカ如シ故ニ亦前條ノ例ニ照シテ處斷ス若シ人ヲ殺スノ意ヲ以テ其監禁ヲ解クヲ爲サス因テ死ニ致シ (二八二)

第七節

至第三百二十九條

脅迫ノ罪

脅迫トハ言語若クハ文書或ハ形容ヲ以テ人ヲ恐喝畏懼

セシムルヲ云フ所謂腕力ヲ以テ人ヲ畏懼セシムル暴行ニ對スルノ義ナリ

第三百二十六條

人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居

シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

通常ノ罪ハ決心豫備實行ノ區別アリト雖モ此犯罪ハ其區別ヲ論セズ亦其目的ノ如何ヲ問ハス止々脅

迫シタル而已ニシテ罪ヲ遂ケタル者トシ其脅迫ノ方法ニ依テ罪ノ輕重ヲ定ム乃チ生命ヲ奪ハント脅迫シ又ハ家屋財産ニ放火セント脅迫スルハ其畏懼最モ深ク人ヲシテ片時 (三六三)モ安堵スルヲ得サラシム故ニ本項ノ刑ニ處ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放

火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以

上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント人ヲ脅迫シ又ハ財産即チ人ノ住居セサル建造物及ヒ船舶山林其他ノ物

件ニ放火セント脅迫シ又ハ毀壞劫掠セント脅迫スル者ハ前條ノ生命及ヒ人ノ住居シタルモノニ比スレハ其脅迫ノ方法輕キニ屬

ス故ニ前項ノ刑 (三六三)ヨリ輕キニ處ス

第三百二十七條

兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル

者ハ各一等ヲ加フ本條ハ一層惡ム可キ情狀アレハ更ニ其刑ヲ加重ス蓋シ兇器ヲ持ストハ現ニ兇器ヲ持テ之ヲ用フ可キノ形容ヲ爲シ脅迫シタル者ヲ云フ但兵士ノ如ク常ニ刀劍ヲ帶フル者人ヲ脅迫シタリト直チニ持兇器ノ脅迫トハ爲シ (三六三) 難シ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫

シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ親屬ニ害ヲ加フ可キ云云トハ例ヘハ他ノ父母

ニ對シ何々ノヲ爲サスハ汝ノ子孫ヲ殺害ス可シト脅迫スルカ如シ其親屬ニ對シ脅迫セラルハ其感觸己レ脅迫ヲ受クルト異ナルヲナキハ人ノ常情ナリ故ニ本 (二一四、二一五、三六三) 人ニ對シ脅迫スル者ト刑ヲ同フス

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケ

タル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス脅迫ハ膽力ノ

強弱ニ因テ其感觸ニ淺深アルモノナレハ他ヨリ之ヲ推測スルヲ得ス例ヘハ婦人ニ對スルト軍人ニ對スルトハ其感觸差異ナキヲ得サルカ如シ故ニ其脅迫ヲ受ケタル者或ハ其親屬ノ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セサルヲ定ム (二一四、二一五)

第八節 第三百墮胎ノ罪墮胎ハ藥物其他ノ方法ヲ以テ胎子ヲ殺スヲ云フ故ニ其

罪ハ胎子ヲ殺スニ堪ユ可キ藥物其他ノ方法ヲ用ヒタルト胎子ヲ殺ス可キ意アルト之ヲ遂ケタルトノ要點ヲ具ヘ始テ其罪ヲ成立スルモノトス而シテ胎兒ハ果シテ恙ナク分娩スルヤ否ハ敢テ豫知シ能ハサルモノナレハ既生者ヲ殺害スル者トハ其間多少ノ差別アリ故ニ墮胎ハ以テ人ヲ殺スノ罪ト同視シ難シ然レモ之ヲ不問ニ措クモハ道德ヲ損害スル而已ナラス其弊人ヲ減耗スルノ害ヲ來スニ至ル可シ故ニ此節ヲ設ク

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮

胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス女婦

ノ自ラ墮胎ヲ爲スハ多クハ私通野合ノ兒ヲ擧ンコト耻テ之ヲ其
父母兄弟ニ秘センコトヲ思ヒ或ハ世上ニ面目ヲ失ハンコト恐レ或
ハ貧困ニ迫ル等ノ痴情ヨリ生スルモノニテ亦自ラ危険ヲ冒
スモノナレハ其情恕ス可キ所アリ故ニ其刑稍輕キニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメ

タル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者
ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス 孕婦ノ夫若クハ
密夫等ハ其愛情

同フスルヨリ藥物其他ノ方法ヲ授ケ墮胎セシムルハ固ト婦女ト
同謀ナレハ前條ト同刑ニ處ス若シ爲メニ婦女ヲ死ニ致シタルハ
ハ意想ノ外ニ出ツルモノト雖モ墮胎ノ罪
而已ニ止ムルヲ得ス故ニ其刑ヲ重クス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シ

タル者ハ各一等ヲ加フ 醫師穩婆藥商ハ皆人ノ健康ヲ司リ
其生育ヲ保護ス可キ職業ナルニ其

本分ニ戻リ彼等ノ囑託ヲ受ケテ墮胎ノ術ヲ施スハ其事ノ爲シ易
クシテ之ヲ防クニ難ク社會ニ害ヲ與フルモ亦大ナリ故ニ特ニ其
刑ヲ重
クス

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ

墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ

處ス 前數條ノ墮胎ハ婦女自ラ之ヲ爲シ或ハ婦女ノ囑託ヲ受ケ
テ墮胎セシメタル罪ナシ本條ハ孕婦ノ欲セサルヲ強テ

墮胎セシムル罪ヲ云フ其威逼シトハ暴行脅迫ヲ施コス者ヲ云ヒ
誑騙トハ詐僞欺瞞シテ藥物ヲ與フル等ノ方法ヲ用フル者ヲ云フ
是等ノ所爲ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ
其情甚タ惡ム可シ故ニ其刑ヲ重クス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他

暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上
五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出
タル者ハ輕懲役ニ處ス 懷孕ノ婦女ナルヲ知リナカラ憤
怒ニ乘シ之ヲ毆打シ或ハ其他ノ暴
行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシムル者ハ前數條ニ
比スレハ其情狀殊ニ重シ故ニ輕懲役ニ處ス (二九九以下)

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤
疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ
重キニ從テ處斷ス 前二條ノ威迫誑騙毆打暴行ニ因リ墮胎セ
シメタル爲メ其婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致
シタル者ハ前二條ノ刑ヲ以テ毆打創傷ノ各
本條ニ照シ其重キ方ニ從テ處斷スル者トス (三九九以下)

第九節 至第三百四十條 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

幼者トハ八歳未滿ノ子老者トハ年齢ニ幾計ナラテ問ハス
老衰シテ自カラ一身ヲ生活保存スル能ハサル者疾者トハ
癡篤疾其他ノ病患ニ罹リ自ラ生活スル能ハサル者ヲ云フ
八歳以上ノ幼者又ハ自ラ生活ヲ得ル老疾者ハ假令遺棄
ラルトモ未ダ甚シキ危難ニ陥ルヲナキカ故ニ法律ニ於
テハ之ヲ罰セサル者トス但遺棄スルトハ他所ニ放棄シ又
ハ居宅ニ棄置キ自ラ失踪スルヲ云フ若シ他所ニ放棄スル
ハ他人ニ保護ヲ爲サシメ家ニ置去リニ爲スハ其跡ヲ追ヒ
歸ルコトアラハ遺棄
ノ罪ニハアラス

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者
ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 滿八歳ト定ムル
ハ八歳未滿ノ幼
者ハ殊ニ無智無識ニシテ如何ナル罪ヲ犯スハ刑法ハ之ヲ罰セサ
ル程ノモノナリ而シテ之ヲ遺棄スルノ情貧苦等ニ出テ全ク饑餓
セシムルノ意ナキモノハ必ス暗ニ他人ノ保育ヲ乞フノ意ヲ有ス
故ニ或ハ人ノ門内或ハ多ク人ノ往來スル場所ヘ之ヲ遺棄スルハ

第三編 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

自然ノ情ナリ是等ハ次條ニ掲ケタル遺棄者ニ比スレハ其情頗ル恕ス可キ所アリ故ニ僅カニ短期ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルコト能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル

者亦同シ 老疾者ノ自ラ一身ヲ保存スル能ハサル者モ前項ノ幼者ト異ナルコトナシ故ニ之ヲ遺棄スル者ハ亦同刑ニ處ス

九 (三六三)

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥

闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ

重禁錮ニ處ス 幼者老疾者ヲ寥闕タル山林曠野等ノ人跡無キ地ニ遺棄スルハ殊ニ危険ヲ覺フ而シテ之ヲ遺棄スルヤ固ヨリ生命ノ如何ヲ顧ミルノ念ナキハ明瞭ニシテ其所爲ノ殘忍ナル甚ク惡ム可キモノナリ故ニ其刑ヲ重クス

(三六三)

第三百二十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス

可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フノ

寄託ヲ受ケ給料ノ爲メ幼者老疾者ヲ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯スハ己レ利慾ノ爲メニ其義務ヲ放棄シ却テ害ヲ加フルニ至ルハ其情更ニ重シ故ニ各本刑ニ一等ノ重キヲ加フ

但シ給料ヲ受ケサル者ハ加重ノ情狀ナシトス

第三百二十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致

シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス 本條ハ遺棄ノ

害最モ大ナルモノナリ乃チ地ノ繁閑ヲ論セス都テ遺棄シタルニ

原因シ遺棄セラレタル者凍餒ニ堪ヘス自ラ死傷シ又ハ他人若ク

ハ禽獸ノ爲メニ死傷セラレ癡篤疾或ハ死ニ致シタル者ヲ云フ蓋

シ其死傷遺棄セラレタルニ原因セサルハ別ニ死傷ノ罰ニ當ル者アレハ其遺棄者ハ止マ (三六三)

遺棄ノ本刑ヲ受ル而已

第三編 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ
 遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助
 セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以
 下ノ重禁錮ニ處ス 本條ノ事アルヲ知ラサレハ則チ已ン苟モ
 之ヲ知ラハ其地主又看守者即チ番人差配
 人ナル者ハ之ヲ救助シ又ハ官ニ申告ス可キハ社會ニ盡ス可キ義
 務ナリ然ルヲ之レカ困苦ヲ見テ救助セヌ多少ノ煩勞ヲ厭ラ官ニ
 届ケ出テサルハ其情狀
 不問ニ付ス可カラヌ

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス
 又ハ申告セサル者亦同シ 此項ハ遺棄セラレタル者ニ非ス
 ト雖モ其情較前項ト同シ故ニ同
 刑ニ
 處ス

第十節 至第三百
 四十五條 幼者ヲ略取誘拐スル罪 此節ノ幼
 者ハ男女

ヲ分タスト雖モ其例概チ女子ニ多シ而シテ其幼者ヲ二期
 ニ分ツ即チ十二歳未滿チ一期トシ二十歳未滿チ二期ト爲
 ス略取トハ暴行脅迫ヲ用ヒ奪ヒ取ルヲ云ヒ誘拐トハ幼者
 ニ菓子等ヲ與ヘント欺キ或ハ好ム所ノ者ヲ共ニ見ント詐
 ル等種々ノ偽計其他ノ方法ヲ以テ他所ニ連レ行チ云フ此
 罪ヲ犯スノ目的種々アリト雖モ多クハ自己ノ利慾ニ出ル
 モノナリ蓋シ此略取誘拐ハ自ラ之ヲ藏匿シ若ク
 ハ他人ニ交付シ始メテ其罪ヲ遂ケタル者トス

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ
 誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ
 二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以
 下ノ罰金ヲ附加ス 本條ハ第一期ノ幼者ニシテ未タ事ノ利
 害得失ヲ判別スルノ智慮ナク又ハ筋骨

脆弱ナレハ誘拐略取共ニ極メテ容易ナル可シ故ニ略取誘拐ノ差別ナシ本條ノ刑ニ處ス殊ニ罰金ノ次條ヨリ多キハ本條ノ罪ハ多クハ幼女ヲ略拐シテ之ヲ娼妓等ニ爲シ或ハ人ニ賣テ利ヲ謀ルノ慾心ヨリ起ルモノナルヲ以テナリ

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 本條ハ第二期ノ幼者ニシテ即チ滿十二歳ヨリ二十歳未滿ノ者ニ係ル蓋シ之ヲ十二歳未滿ノ幼者ニ比スレハ稍ヤ利害ヲ判スルノ智力備ハレハ

略取誘拐セララル、且亦家ニ歸リ得可ク或ハ他ニ依頼シ助援ヲ乞フノ方略ヲ辨フ者トス仍テ略取ト誘拐トヲ區別シ且前條ニ比スレハ稍各輕キ刑ニ處ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス 前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラ

レタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效
 ナシ 略取誘拐ノ罪ハ多ク十二三歳以上ノ女子ニ係ル而シテ其
 罪ハ犯姦ト同ク世上ニ傳フルルハ爲メニ名譽ヲ損シ婚姻
 ノ障礙トナル可キニ因リ之ヲ秘センコトヲ務ルヤ知ル可キナリ故
 ニ被害者又ハ其親屬ヨリ之ヲ告訴スルニ非サレハ其罪ヲ論セス
 但シ式ニ從テ婚姻ヲ爲シタルトハ略 (一一四、一一五)
 誘者ト公クニ婚姻爲シタルヲ云フ

第三百四十五條

二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シ

テ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス 外國人ニ交
付シタルハ

ハ其幼者ヲ搜索スルニ難ク又幼者モ自ラ歸國スルニ難カル可シ
 其他關係ノ大ナル前數條ノ比ニ非ス故ニ最モ其刑ヲ重クス又本
 條ノ罪ハ本人及ヒ親屬ノ告訴ヲ待
 タスシテ其罪ヲ論スルハ勿論ナリ

第十一節

至第三百
五十四條 猥褻姦淫重婚ノ罪 男女相和媾
ノハ自由

ニ任シ法律ハ敢テ之ヲ制限セフ故ニ陰ニ之ヲ行ヒ公ケニ風俗ヲ
 害セサルハ之ヲ罪セサルナリ然レモ幼者ノ情慾未タ萌サス若
 シハ承諾セサル者トシ姦シ及ヒ二夫二妻ノ如キハ正義ヲ破リ公
 道ヲ紊ルニ足ル其他淫行ヲ鼓舞シ風俗ヲ壞濫スル者ハ必ス之ヲ
 罰セサル
 可カラス

第三百四十六條

十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ

所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫
 ナリテ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上以
 下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス 猥褻ノ所業ヲ爲ストハ未タ姦淫ニ至ラスシテ其身体ノ一
 部ヲ假リテ陰情ヲ漏シ婦人ノ貞潔ヲ汚損スルヲ云フ乃チ
 之ヲ犯ス者手足ヲ以テ專ラ陰部ニ直接ニ關スルモ猥褻ノ部内ニ
 在リ但其男女ト連稱スル者ハ男ノ男ニ對シ女ノ女ニ對スル所業